FORUM8™
Virtual reality design studio
UC-win/Road

映像新聞

令和元年（2019年） 5月27日 第2385号

株式会社 映像新聞社
Weekly THE EIZOSHIMBUN
(VISUAL COMMUNICATIONS JOURNAL)
〒112-0006 東京都文京区小日向1丁目24番8号エイゾービル
電話：(03)3942-2161(代)／ファクス：(03)3942-2581
昭和42年1月25日 第3種郵便物認可 郵便振替：00140-0-65786
1部600円、年間購読料26,000円(税別)

©映像新聞社
毎週月曜日発行(月4回発行)



NHKはNABショーで次世代地上テレビ放送方式をアピールした

地上TV高度化が本格始動

東京・名古屋などに実験局

技術基準策定へデータ収集

4カ年で技術試験事務

高度地上波テレビ放送の実用化に向けた動きが本格化する。総務省は、①同放送のための空き周波数の創出②同放送の技術基準策定――を目的とする「周波数ひっ迫対策技術試験事務」（平成31年―令和4年度の4カ年／平成31年度予算額：77・2億円の内数）について、実施者に放送サービス高度化推進協会（A―PAB）を選定し、既に契約を終えた。A―PABは同技術試験事務の実施に向け準備に入っている。同技術試験事務は、昨年度、東京・名古屋両地区で実施された「地上放送の高度化技術に関する研究開発」（以下、高度化研究開発）用の実験試験局を活用することに加え、複数の地方都市でもフィールド実験が実施される見通しだ。

A―PABが事業主体に

米国では、次世代地上テレビジョン放送方式「ATSC3・0」による放送サービスを、2020年末までに40都市で実施する計画が発表されている。既にATSC3・0の放送サービスを開始しているのが韓国。20年に全国をカバーし、27年に現在のATSC1・0を終了、3・0に完全移行する計画だ。27年には8Kのオンエアテストも実施するという。

こうした情勢の下、地上波テレビ放送の高度化に必要なデータをとり切ることである。

総務省の担当補佐は、「かなり難しい技術の研究開発を3年間かけて実施してもらい、要素技術は確立できたと思う。この技術を実際の放送システムにどう適用していくかを、技術試験事務の中で関係の方々に知恵を絞ってもらいたい」と話す。

技術試験事務の事業者に認定されたA―PABを中心に、高度化研究開発の実施主体であったNHKやソニー、パナソニック、東京理科大学、NHKアイテック、さらには、補正予算で、1chで地デジと4Kを同時に送るための方式の研究・開発を進めてきたTBSテレビや関西テレビ放送など、これまで関連の研究開発を担ってきた事業者にも、検討作業に取り組んでもらうことを想定している。

実験エリアについては、高度化研究開発用に設けた東京・名古屋の実験試験局はそのまま生かす一方、より多くのデータを集める観点から、地方都市を数カ所加える方向で、現在、総務省とA―PABが調整を進めている。

前出の担当補佐は「実用放送を念頭に置いた取り組みであることから、一定程度の電力で、エリアもしっかりとった形で実施し、得られたデータがそのまま生かせるような規模の実験試験局がつくれれば」と話す。

実験試験局は、地デジの周波数帯で使えるチャンネルがあること、実験エリア内の現行放送に影響が出ないことなどが条件。総務省とA―PABではラジオマイクとの調整も含め、利用可能なチャンネルを探している。

実験試験局の調整は、現行の地デジへの影響などの点で難しい側面もある模様。調整が済み、準備が整った地域から順次、電波を出し、実験を進めることになる。

〈3面に続く〉

東北映像フェスティバル2019 特集

仙台で5月30、31日 [11-14面]

本号の主な記事

［プロダクション］
エクサインターナショナル/ファイルアーカイブサービス展開 . . 2
［衛星］
米国で開催「SATELLITE2019会議・展示会」報告㊦ 7

映像新聞ウェブサイト
http://www.eizoshimbun.com
購読のお申し込みはこちらから

SWEDISH 緊急報道!!
SWE-DISH 小型衛星通信装置
世界シェア第1位（小型可搬部門）
■CCT120超小型衛星通信用アンテナ

■IATA対応ケースに収納可能
■車載専用バージョンもあり！
衛星通信車も設計から製造、車検登録まで一貫しておこないます。
エーティコミュニケーションズ株式会社 http://www.bizsat.jp
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14
AT Communications k.k. TEL:03-5772-9125 FAX:03-5772-9126

イベント・映像機器レンタル業務に
特化したレンタルシステムは、
キッセイコムテックの
KAREN―CORE
詳細は以下をインターネット検索
「KAREN-CORE」
http://karen-core.com
KAREN-CORE

PREFERRED PARTNER
4Kノンリニア編集に最適な
高性能ワークステーション
高品質な結果が要求される現代のプロフェッショナルの仕事に対応するNVIDIA® Quadro RTX™ 4000を採用
エンコード作業・CGレンダリングなどに最適なインテル® Xeon® スケーラブル・プロセッサーを搭載
MousePro-W995DQR4-M1 販売価格 458,000円(税別) ※送料別途2,000円
・Windows 10 Pro for Workstations 64ビット (DSP)
・インテル® Xeon® Silver 4110 プロセッサー (8コア/ 2.10GHz/ TB時最大3.00GHz/ 11MB スマートキャッシュ)
・16GB DDR4 ECC Registered 対応メモリ
・480GB SSD
・DVDスーパーマルチドライブ
・NVIDIA® Quadro RTX™ 4000 (8GB)
・Supermicro® X11 シリーズ マザーボード
・1000W 電源 (80PLUS® PLATINUM)
・1年間無償ピックアップ保証
・24時間365日電話サポート
※液晶ディスプレイは別売です。※画像はイメージです。
安心の国内製造・国内サポート & 24時間365日電話サポート!
株式会社マウスコンピューター
〒103-6026 東京都中央区日本橋2-7-1 東京日本橋タワー26階
MousePro 検索
ご購入・カスタマイズのご相談はこちらまで
法人のお客様 月～金 9時～18時 土日祝 9時～20時 03-6739-3808
MousePro
デザインワークも
「MousePro」
乃木坂46
白石 麻衣

エクサインターナショナル

ファイルアーカイブサービスを展開

バーチャルスタジオも運用

エクサインターナショナルは、16、17日にグループ会社の朋栄が開催した内覧会で、ファイルアーカイブサービスと、バーチャル撮影が可能な撮影スタジオを紹介した。

アーカイブサービスは、多様なフレームレートや画面サイズの変換、フィルムとテープ、ファイルの相互変換といった映像技術を元に、「E−QAS」（イーカス）のブランド名で展開している。

16ミリや35ミリフィルム、1インチやD2テープ、最新の形のマスターまで幅広く扱うことが可能で、フィルムの補修や映像のノイズ除去、4Kへのアップスケーリング、フリッカーの軽減といった画質補正とリマスタリング、またLTOを使ったアーカイブ管理まで一貫して行える。近年は、ミュージシャンの作品を劇場公開するイベントに向けたDCP変換も実施する。

ブースでは、D2で制作されていたライブコンサートのリマスタリング映像を上映し、その効果を披露した。

2023年にはVTRのメーカーサポートも終了することから、映像資産の管理は今後、一層必要になってくる。営業部マネージャーの柴崎康規氏は、「予算と納期にあわせて、エクサの総合力で顧客にサービスを提供していく」と話している。

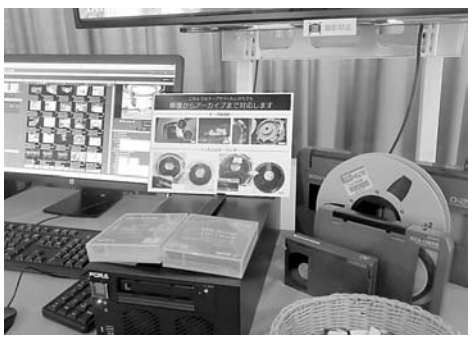
スタジオは同社の本社・赤坂センターの地下1階で稼働する。広さは約60坪でカメラやクレーン、スイッチャー、HDCAM、XDCAMなどの収録機、昇降床を備える。

3Dバーチャルシステムに対応し、完パケクオリティーで収録できるため編集時間やコストのコントロールが可能。ブルーとグリーンのカーテンを常設している。

バーチャルスタジオでは、セットと連動させた自由でダイナミックなカメラワークが実現するほか、マニュアルや学習教材を分かりやすく表現できる。同社CGオペレーターが受領した素材から仕込むほか、バーチャルセットも利用可能。

美術セットを立て込んだ番組収録も多く実施されており、国際放送の情報番組や民放局の人気バラエティー番組をレギュラーで撮影している。

東京メトロ赤坂駅から徒歩3分の場所にあり、スタッフや出演者の交通の便が良いのも特徴としている。


アーカイブサービスの展示


バーチャルスタジオ

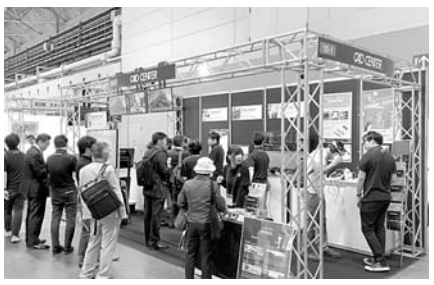
キャドセンター

統合型リゾート展に出展

都市データやVR／ARを訴求

キャドセンターは、5月15、16日に大阪市で開催された「第1回［関西］統合型リゾート（IR）の誘致を進めると同時に、2025年の万博開催が決まっている。同社はこれに向け、デジタルおよび映像を使った技術と知見の提供を訴求した。

ブースでは、ヘッドマウント型VRによる販促用バーチャルモデルルームや訓練シミュレーションの事例を紹介したほか、19年秋発売予定のフォト・リアリスティック3次元都市データ「REAL 3DMAP」シリーズの大阪版プロトタイプを参考出展した。スマホやタブレットで画面に表示された扉を入るとARで各地を疑似体験できるアプリ「旅するトビラ」や、ショールームなどの施設案内で利用できる説明アシストアプリ「アテンダーNAVI」も出展した。


ブース


バーチャルモデルルーム

モルフォとヌーベルが業務提携

制作支援のAIソフトを共同開発

自動マスキング／ワイプに着手

デジタル画像処理と人工知能型画像認識の技術を持つモルフォは、ヌーベルグループのNVCおよび、同グループで放送、映像、音響に特化したAIの開発販売を手掛ける3MIM（サードミーム）と、映像制作における業務効率化のためのAI（人工知能）ソフトウエアを共同開発する業務提携契約を締結した。

3社は、自動マスキングシステムおよび自動ワイプシステムのAIを共同で開発する。前者は、被写体の顔など特定の領域をAIで自動抽出することで、モザイク加工や背景入れ替えを支援する。後者は、映像内から出演者の頭部位置をAIで推定し、出演者が動いても頭部を枠内に収められる。

開発したソフトは、映像制作と編集業務の効率化を図る制作あるいは広告事業者、放送・OTT事業者などにライセンス販売する。なおソフトは3社の共同権利物となる。

完成時期は未定だが、初披露は11月頃を目指す。

Leader
プライベートショー
技術セミナー同時開催

■展示会概要
【新製品】●8K対応波形モニターLV5900
●波形モニターLV5600/ラスタライザーLV7600
・4K-IP対応オプション（25Gb/s）
・4K-IP対応パターンジェネレーターオプション（25Gb/s）
・ノイズメーターオプション
●シンクジェネレーターLT4610
・8Kパターンジェネレーターオプション
【従来製品】・ZENシリーズ ・チェンジオーバー ・シンクジェネレーター
・ブリッジ社製 40G IPアナライザー

■基調講演 事前申込制
「将来の放送の発展への期待」
講師：元NHK放送技術研究所長　黒田 徹 氏

■技術セミナー 事前申込制
セミナー1：「SDI技術者のためのIP講座」
講師：弊社 技術開発部　坂本 圭弘 / 辻 真由美
セミナー2：「カラリストによる4K HDRグレーディングについて」
講師：株式会社IMAGICA Lab.　カラリスト 関口 正人 氏 / 山根 暁子 氏

※基調講演・技術セミナーの内容は変更する場合があります。
お申込みは、弊社WEBサイトからお願いします。

■東京会場：トラストシティ カンファレンス・丸ノ内
開催日：2019年6月12日（水）、13日（木） 開催時間：10:00〜17:30（最終日は17:00）
■大阪会場：ホテルメルパルク大阪
開催日：2019年7月1日（月）、2日（火） 開催時間：10:00〜17:30（最終日は16:30）

リーダー電子株式会社
本社・国内営業部 横浜市港北区綱島東2-6-33 TEL（045）541-2122（代） 関西（06）6192-1152
https://www.leader.co.jp

DECIMATOR DESIGN
3G-SDI/ HD-SDI/ SD-SDI/ HDMI/ Composit Video
Component Video/ AES/ Audio Meter
SDI ミニ コンバータ シリーズ

DMON マルチビューワー
オーディオメータ監視付き、低価格マルチビューワー
4 入力 〜16 入力までラインナップ
入力：SDI ＞ 出力：SDI & HDMI

DMON-16S	価格￥250,000（税抜）
DMON-12S	価格￥220,000（税抜）
DMON-6S	価格￥ 98,000（税抜）
DMON-4S	価格￥ 78,000（税抜）
DMON-QUAD	価格￥ 48,000（税抜）

▸▸双方向◂◂ SDI / HDMI コンバータ

MD-LX　価格￥15,800（税抜）
SDI / HDMI 双方向コンバータ
・入力によって下記の動作モードに自動設定
SDI 入力 ＞ SDI/HDMI 出力
HDMI 入力 ＞ SDI/HDMI 出力
SDI 入力 ＞ HDMI 出力 & HDMI 入力 ＞ SDI 出力
・ポケットサイズ　60mm x 73.7mm x 23mm

TIDE TAC Import, Distribution & Export
タックシステム株式会社IDE事業部
www.tacsystem.com
E-mail: info@tacsystem.com
〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-5-1 Tel：03-3442-2955 Fax：03-3442-1526

3D TV、AR・VRの研究開発に焦点

30日からNHK技研公開

180度大画面で高精細VR映像

NHK放送技術研究所（以下、技研）の最新の研究成果を一般に公開する「技研公開2019」が、5月30日―6月2日の4日間、東京都世田谷区砧の技研で開催される。今年は、「ワクからはみ出せ、未来のメディア」をテーマに、24項目の研究成果を展示する。

AI活用の番組制作も進化

今年の技研公開では、8Kに続く将来の新しい映像表現技術として、画面から飛び出したり、画面の枠を取り払ったりというような、3Dテレビや AR・VRの研究開発にフォーカスする。

また、ネットを活用することで放送サービスの利便性をさらに高めることを目指した「コネクテッドメディア」、AI（人工知能）を活用した番組制作支援やユニバーサルサービスの拡充を目指した「スマートプロダクション」、8Kスーパーハイビジョンの最新の研究成果を展示する。


高精細ＶＲ映像

〈3Dテレビ、AR・VR〉

「高精細VR映像」の展示は、ヘッドマウントディスプレーなどを使って広視野の映像をインタラクティブに楽しむことができるVR技術と、高精細映像を組み合わせることで、よりリアルで高い没入感が得られるコンテンツ視聴を目指した技術。同コーナーでは、将来、さまざまな視聴スタイルで楽しむことができる高精細VR映像の視聴イメージを、180度の視野を覆う大画面スクリーンで体感できる。

「ARを活用したテレビ視聴スタイル」の展示では、テレビ画面から出演者が飛び出してきたような新しい視聴体験を紹介する。MMT（MPEG Media Transport）の技術を使用して、放送番組と同期してインターネットで配信される番組出演者の3D映像が、AR用のメガネやスマートフォンのカメラ機能を通して、テレビの前に実物大で合成表示される。

「視点に追従するインテグラル3D映像」の展示では、特別なメガネが不要で、自然で見やすいインテグラル3Dテレビの視聴範囲を広げる技術などを紹介する。

〈スマートプロダクション〉

AIを活用して効率的な番組制作支援などを目指す「スマートプロダクション」では、ラジオで気象情報を伝えるNHKアナウンサーのノウハウを生かして、気象情報番組を自然で滑らかな合成音声で読み上げる「AIアナウンサー」の技術を紹介。

「生放送番組における自動字幕制作」の展示では、地域放送局での字幕制作の拡充に向けて、AIを活用した音声認識により、生放送の音声から自動的に字幕を制作し、スマートフォンなどにインターネット配信する技術を紹介する。

「スポーツ映像の状況理解技術」では、ロボットカメラの実現に向け、スポーツ映像から競技の状況を理解する技術を展示する。

〈コネクテッドメディア〉

「ネット×データ×IoTが連携するメディア技術」の展示では、視聴者がテレビの前を離れても、周囲の多様なIoTデバイスを用いて、番組の内容をそれぞれのデバイスの特徴に応じた方法でユーザーに提示する技術などを紹介する。

〈8Kスーパーハイビジョン〉

「スーパーハイビジョンワイヤレスカメラ」の展示では、8Kカメラで撮影した映像を無線伝送できる8Kワイヤレスカメラを展示する。

ケーブルレスで映像を伝送できるため、スポーツ中継や音楽番組の制作など、被写体に近づいた迫力あるシーンの撮影に活用されている。8K映像のワイヤレスカメラは世界初。

「フルスペック8Kライブ制作伝送実験」の展示では、映像のフレームレート（コマ数）を120Hzに高めることで、被写体の動きをより鮮明かつ滑らかに表現するフルスペック8K映像のライブ制作と衛星伝送の公開実験を実施する。

中継現場では、8K120Hzに対応したカメラなどの制作機器を用いてコンテンツを制作。HEVC方式による映像符号化装置で圧縮し、広帯域・大容量伝送が可能な21GHz帯中継器を搭載したBSAT―4a衛星を用いてライブ伝送する。会場では受信した8K120Hzのコンテンツを見ることができる。

〈講演・ラボトーク〉

5月30日に今年の技研公開のテーマに関連した2件の基調講演、31日に技研の職員による6件の研究発表「ラボトーク」を実施する。

基調講演では東京大学先端科学技術研究センター教授の稲見昌彦氏が、「身体の未来　拡張現実感から人間拡張工学へ」と題し、VR・ロボット技術を用いて身体能力を拡張する人間拡張工学とともに、身体の可塑（かそ）性に着目した『自在化身体』プロジェクトの概要について解説。

また、東北大学 電気通信研究所所長・教授の塩入諭氏が、「空間表現を広げる視覚のしくみ」と題して、映像技術における人間の視覚特性、行動や身体とのかかわりなども含め、最近の視覚や他の感覚の認知過程の研究から、従来の枠を超え空間表現を広げる手がかりについて話す。

ラボトークでは、技研の研究員が最新の研究内容を、映像やデモンストレーションを交えて分かりやすく紹介する。

地上テレビ高度化が本格始動

5社、TBS、関テレの3方式

各地でフィールド実験へ

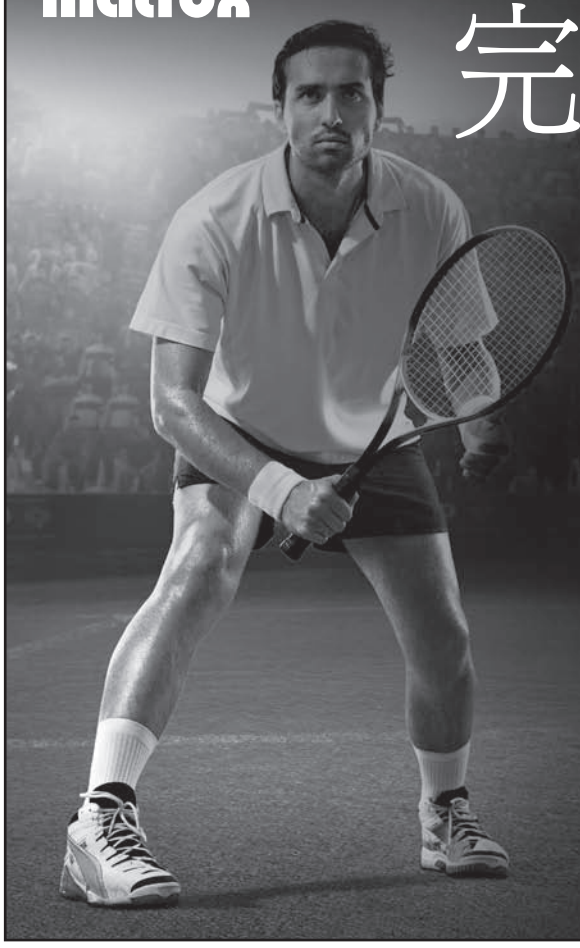
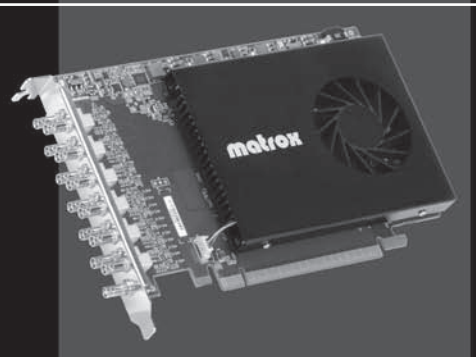
〈1面から続く〉

地上テレビ放送高度化の方式としては、高度化研究開発でNHK、ソニー、パナソニックなどが実証実験に取り組んだ〝5社方式〟と、TBSテレビ、関西テレビ放送の方式がある。

5社方式は、リパックなどによってchを確保できた場合に、そのchで4Kや8K放送を実施する技術。TBSテレビ方式は、階層分離多重（LDM=Layered Division Multiplexing）技術を用いて2Kと4Kを同一のchで伝送する技術で、関西テレビ方式は、セグメントを分割して2Kを水平・垂直両偏波で伝送する技術である。

TBSテレビと関西テレビは「地上4K放送等放送サービスの高度化推進事業」（平成28年度第2次補正予算）を請け負い、それぞれの技術を検討してきた。

今回の技術試験事務では、東京と名古屋で5社方式、他の都市で、TBSテレビ、関西テレビがそれぞれ実験試験局を設け、それぞれの方式の送信機を使ってフィールド実験を実施することになりそうだ。


matrox
完全装備　4K＋HDR＋12G
マルチチャンネル 12G SDI I/O
HW HDR 変換
及びビデオプロセス機能搭載
Matrox X.mio5 12G
▶ マルチチャンネル 12G 及び 3G SDI
▶ 入出力構成の任意変更可能
▶ 4K HDR ビデオ変換機能
▶ セルスケーリング，デインターレサー，合成

40年間
世界中で支持され
進化し続けるSDK
対応 OS：Windows, Linux
日本語によるタイムリーな国内開発支援
お問合せ先
ジャパンマテリアル株式会社
グラフィックスソリューション事業部
TEL 03-5323-0820
E-mail：sales-IT@j-material.jp　URL：http://www.jmgs.jp
※記載されている商品名等は各社の商標または登録商標です。

TV局のデータ活用は急務

視聴データ新時代（下）

総務省の取り組み

CMの説明力高め番組魅力的に

〝特定〟活用でGAFAに対抗

「〝メディア×データ〟でビジネスを拓く！」をテーマにした「ブロードバンド特別講演会」が10日、都内で開かれた。新たな視聴データの活用例がいくつか登場する中、総務省の山田真貴子局長は「放送事業の成長戦略の構築が急務」と強調。デジタルデータを活用し、放送の魅力を高め、番組をネット活用してマネタイズを図るべきとした。視聴データ新時代に向け、総務省がどのような青写真を描いているのかを追う。

（特別取材班）

★放送サービス高度化

視聴データに関する総務省の姿勢は、過去30年の放送行政を追うと理解がしやすくなる。同省のこの間の基本方針は、放送の充実、産業の活性化、日本の国際競争力強化が三本柱だった。

１９９０年代後半、当時の郵政省（現総務省）は、放送のデジタル化を決定した。ＢＳや地上波テレビのデジタル化だ。直接的な経済波及効果が10年間で２１２兆円、雇用創出効果７１１万人という壮大な試算を掲げながら、国策が動き出していた。

そして２０１１年に完全デジタル化が達成されると、次は放送サービスの高度化となる。デジタル化が実現したハイビジョン以上の高画質、データ放送以上に便利なハイブリッドキャストなどだ。

昨年12月に始まった新４Ｋ８Ｋ衛星放送は、この時の決定によるもので、当初の議論では、やはり経済波及効果７兆円や、日本の国際競争力強化も言われていた。

４Ｋ８Kの次はテレビ放送の同時配信に焦点が絞られる。自民党「放送法の改正に関する小委員会」が火付け役となり、さまざまな議論を経て、放送法改正案が今月16日に衆院を通過している。今国会で成立の見通しで、今年度中にＮＨＫは同時配信に着手する。欧米と同等の水準に向け、事態が動こうとしている。

そして次の焦点となったのが視聴データの利活用だ。これまでのデジタル化、４Ｋ８Ｋ、同時配信と比べると、放送の根幹にあまり関係のない政策のように見える。

しかし実際は、「放送事業の成長戦略の構築」に深くかかわる重要テーマと位置付けられている。放送の充実、産業の活性化、日本の国際競争力強化で、視聴データが鍵を握るからである。

特別講演会で山田局長は、まずメディア環境の急激な変化について「インターネットでは、利用が進展している。40代まではスマホ、60代以上ではＰＣが主だが、ネット利用は急速に進んでいる」と説明。

これに伴いテレビが見られる時間は減少傾向にあり、しかもネット接続テレビが、２０２３年に２０００万世帯を超えること、さらに5G時代が到来することで、結果として広告費は、18年に肩を並べ、今年はネットがテレビを追い抜くことになると述べた。

こうした放送の地盤沈下を防ぎ、ＣＭの説明力と魅力を高め、テレビ番組をより魅力的にするために、デジタルデータの活用が欠かせないと話す。

テレビ番組は、全メディアのコンテンツの中で強い力を維持していることから、ネット活用によるマネタイズが、テレビ局の急務との見解を示した。

★変わる広告主の見方

また山田局長は、広告主の見方も変わりはじめていることにも言及。ネットの世界では、さまざまなデータの収集が可能で、広告効果を説明しやすいが、テレビは、広告の中で一番お金が使われているものの、データの収集が困難で成果が見えにくいと指摘する。

そこで広告主はＣＭ出稿でネットを積極的に活用するようになる。結果としてテレビとネットのミングサービス「ＢｒｉｔＢｏｘ」の導入案を発表したことを紹介。

ＧＡＦＡなど米国のメガメディアが、莫大な資金力や利用者数を背景に、インターネット上で世界を席巻していることに対して、オール英国の体制で、対抗しようとしている状況を示した。

そして山田局長は、総務省がいくつかの取り組みに着手していることも説明した。今年１―２月に、在京民間放送局５社が個別に収集している視聴データを集約・分析する共同技術実証実験を実施したこと、ＴＶｅｒｄａｉ（ｄａｉ-ｍｅｄｉａ．ｍａｉｎ．ｊｐ/）。

★欧米の先進例

また山田局長は、欧米での先進例に触れた。

米国ＣＦｌｉｇｈｔ（ＮＢＣユニバーサル）やＵｎｉｆｉｅｄ（ＡＢＣ）は、テレビとデジタルに渡るクロスデバイス評価やマルチデバイスでの視聴測定に着手。英国ＩＴＶは、スマートテレビを活用した広告提供サービスとして、18年にアドレッサブル広告を開始していることを示した。いずれもネットが無視できない存在となったことへの対応である。

またＢＢＣはＩＴＶと共同で、今年２月にＮｅｔｆｌｉｘへの対抗策として、英国独自コンテンツを配信する新ストリーミングサービス「ＢｒｉｔＢｏｘ」の導入案を発表したことを紹介。

ＧＡＦＡなど米国のメガメディアが、莫大な資金力や利用者数を背景に、インターネット上で世界を席巻していることに対して、オール英国の体制で、対抗しようとしている状況を示した。

そして山田局長は、総務省がいくつかの取り組みに着手していることも説明した。今年１―２月に、在京民間放送局５社が個別に収集している視聴データを集約・分析する共同技術実証実験を実施したこと、ＴＶｅｒｄａｉ（ｄａｉ-ｍｅｄｉａ．ｍａｉｎ．ｊｐ/）。

次世代メディア研究所が６月11日、セミナー「データ駆動社会における放送政策の課題」を開く。総務省の担当２課長が〝データ×メディア〟との向き合いを語る場となる。詳細はＨＰ（ｊｉｓｅｄａｉ-ｍｅｄｉａ．ｍａｉｎ．ｊｐ/）。

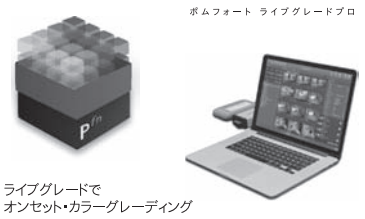
視聴データはトライアルが始まったばかりで、まだまだ先の展開は読めない。それでも放送の充実、産業の活性化、日本の国際競争力強化を前提にすると、総務省行政の方向性は絞られてくる。今後数年で、その辺りが顕在化しそうだ。

は、規格・仕様の統一や、視聴データの収集・利活用が共同で進んでいることをあげる。ＮＨＫもＴＶｅｒに参加する方向で動いており、オールジャパン体制に近づきつつあることも加えた。

さらに個人情報に関する放送分野ガイドラインを、17年に全面改正していることを紹介。これは、パーソナルデータの利活用促進が強く意識された改正だ。

現在、視聴データは個人を特定しない非特定データを使った取り組みが多い。しかし個人情報の保護と利活用のバランスを重視する総務省としては、特定データ活用も視野に入っているようだ。

視聴データとしての精度や拡張性が格段に良くなるし、非特定データの世界で先行するＧＡＦＡ対抗もある。

POMFORT fn LiveGrade PRO
ポムフォート ライブグレードプロ

ライブグレードで
オンセット・カラーグレーディング

POMFORT fn Silverstack
ポムフォート・シルバースタック
オールインワン撮影素材管理ツール「シルバースタック」

大切な素材管理とカラーの
ワークフローをシンプルに。

tools ON air just:in
ジャスト イン
多チャンネル ベースバンド インジェストシステム

- 多チャンネル同時収録
- 4K / HD対応
- スケジュール収録
- 同期収録
- 各種コーデック
- mxfへの収録
- 追っかけ編集対応
- RS422 VTR制御

tools ON air just:play
ジャスト プレイ
Macで構築する番組自動送出システム
4K&HD対応／ サイマル送出／
IPストリーミング
コーデック・解像度混在に対応
／自動ルーター制御
強力なCGレイヤ／フェイルオー
バー対応／ライブフィードCSV・
XMLプレイリストインポート／
ルーター制御


プロジェクト共有・管理 編集コラボレーションシステム
STRAWBERRY
PROJECTIVE
「Strawberry」は、Avid、Adobe Premiere、Final Cut Proなど、プロフェッショナルビデオ編集環境のネットワーク共有ストレージ上で、独自の仮想抽象化レイヤ技術でプロジェクトとコンテンツ、ユーザーとグループを管理。プロジェクト共有とプロジェクト管理を実現し、より高度な素材データ共有を効率化する編集コラボレーションシステムです。

EIZOKO（えいぞうこ）
NAS機能つきアーカイブアプライアンス
シナジー「EIZOKO」は、LTOテープへのアーカイブとアーカイブ後のデータ活用を快適にする機能を備えたアーカイブシステムです。簡易MAM機能を備えたArchiware P5 ArchiveをストレージOSに統合し、あらゆるメディアデータをLTOで保管・管理。映像や音声データをプロキシムービーとともに保管するだけでなく、WordやPDF、予算管理などのExcelデータまでのすべてをLTOにアーカイブし、インデックス管理します。


ROOT6 TECHNOLOGY
ファイルベース ワークフロー自動化ツール
CONTENTAGENT
・映像・音声ファイルの自動トランスコード
・ノードベースのGUIで自動化ワークフローを構築
・メタデータ抽出・改変　・QCチェックツールとの連携
・GPU処理によるフレームレート/解像度/IP変換

映像用途に特化した国産NASストレージ
MIDO NAS

ARCHIWARE
アーキウェア ・ P5アーカイブ
P5 Archive
LTO等にデータを長期保管
メディアアセット管理機能搭載

Synergy 株式会社シナジー　www.synergykk.com　03-4563-1901


過去×未来　人×映像
IMAGICA Lab.
映像でつなぐ、映像がつなぐ。人でつなぐ、人がつなぐ。
未来の映像コミュニケーションをデザインします
事業内容
撮影、映画・TV番組・CM・PR等の映像・音声編集、DCP（デジタルシネマパッケージ）作成、コンテンツ流通・配信サービス、フィルム現像・プリント、映像の修復・復元・保存サポート、デジタル合成・VFX・CG / グラフィックデザインの企画・制作、吹き替え・字幕・翻訳、映像コンテンツの企画制作、イベント等の企画制作、Web やモバイルなどを利用した広告・宣伝・プロモーションの企画制作、システムやアプリケーションの開発、保守運用など、各種映像技術サービス
IMAGICA
www.imagicalab.co.jp
2018年10月1日、（株）IMAGICA、（株）IMAGICA ウェスト、（株）IMAGICAイメージワークスは合併し、（株）IMAGICA Lab.となりました。

急成長 宇宙ビジネス 1

宇宙産業が、さまざまな企業の新規事業領域として魅力と可能性を持つようになってきた。ロケットの打ち上げや、衛星の製造、電子望遠鏡による宇宙の探索と解明といったものは、既に宇宙産業の過去の概念になっており、今日、宇宙へのビジネス投資を牽引し、大きな産業に発展させているのはＩＣＴ産業である。ＩＣＴ企業が宇宙産業に投資する背景・戦略を整理するとともに、情報通信やネット、映像企業にとっての宇宙産業の可能性を見極める。

ＩＣＴ企業が市場牽引

★ＩｏＴと同様の状況に

宇宙産業からもたらされる画期的なデータの活用の機会はあらゆる産業に浸透し、宇宙産業はあたかも、10年前、バイオ技術とＩｏＴが新たな医療のサービスを可能にし、医療介護分野が企業の新規事業として脚光を浴びたのと同様の状況になりつつある。

既に同産業には多数のＡＩやビッグデータベンチャー企業が参入し、多額の資金が流入するゴールドラッシュと化した新興市場になってきた。

宇宙産業に投資をしているＩＣＴ企業の代表格は、米グーグル、米アマゾン、米フェイスブックなど、いわゆるＧＡＦＡであり、さらに先行投資が上手なソフトバンクである（図1参照）。これだけでもＩＣＴ企業が宇宙産業を次世代の戦略的な成長領域として見ていることが推察される。

★急成長続く

宇宙産業市場の成長具合を見ると、2009年には2345億㌦だった市場は17年には3835億㌦、日本円で約40兆円になっており、ＣＡＧＲ（年平均成長率）は6・37％という急成長を続けている（図2参照）。

宇宙産業は現在、衛星産業と直接衛星事業にかかわらない宇宙探索、宇宙ステーション事業、宇宙輸送事業等の総称としての衛星以外産業と区別されている。

衛星産業のＣＡＧＲは6・18％であり、衛星以外の産業では6・62％と後者の成長がより高い。

高度放送サービスでの送信や開発途上国での衛星放送サービスの拡充、衛星によるインターネット接続サービスの提供エリアの拡大、リモートセンシングなどの新規の需要があり、衛星産業は2600億㌦から着実に成長しているようだ。

注目すべきは17年度の宇宙産業の伸び具合である。

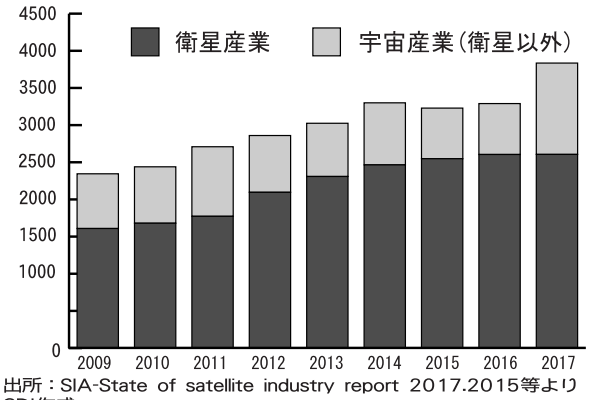
宇宙旅行が民営化され、さらに宇宙ステーションにおける無重力状態での研究開発などのニーズが増大しており、今後も拡大する見通しだ。

図１　GAFA等ICT企業の宇宙産業への投資状況

企業名(国・概要)	各社の動向
SpaceX（米・ベンチャー）	■テスラモーターズの創業者としても知られるイーロン・マスクが創設したスペースXは、Googleから10億ドルの投資を受け、ロケット開発を行う。コストを抑えながら、4425衛星以上の小型衛星からなる低軌道衛星コンステレーションを構築する計画を発表。 ■2019年4月にFalcon Heavyの燃料ロケットの基幹着地に成功。
「Internet.org」（米、NGO）	■2013年8月、FaceBookは半導体大手のクアルコム、スマートフォン製造大手のサムスン電子、通信機大手のノキアやエリクソンとともに、「Internet.org」を立ち上げ、2016年2月には、人工衛星から撮影した画像とAIの力を活用して、世界の正確な地図作成に乗り出していくことを発表。
Blue Origin（米・ベンチャー）	■Amazon.comの創立者であるジェフ・ベゾスが創立した航空宇宙企業である。将来の有人宇宙旅行を目的とした事業を進めており、民間資本で大幅に宇宙旅行を安くして、なおかつ信頼性を高める技術を開発。
OneWeb（米・ベンチャー）	■クアルコムやエアバスといった通信会社やメーカーに加え2016年12月ソフトバンクが同社に10億米ドルの投資。 ■Intelsatと連携して、同じくKu帯を利用するIntelsat社のIntelsat衛星ネットワークおよびIntelsat Epic衛星ネットワークとも連携体制をとることで、北極・南極圏をカバーすることを目指している。

出所：公開資料を元にCDI作成

図２　宇宙産業市場推移　（単位　億ドル）

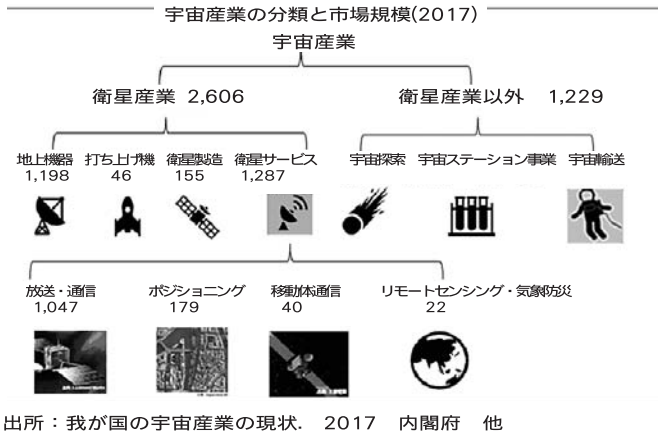


出所：SIA-State of satellite industry report 2017.2015等よりCDI作成

ＧＡＦＡ、ソフトバンクが投資

年平均成長率6.4％、40兆円市場に

図3　宇宙産業の分類　（単位　億ドル）



出所：我が国の宇宙産業の現状．2017　内閣府　他

主体は衛星サービス

★衛星サービスが約半数

宇宙産業の17年度の構成は、先に述べたように、衛星産業の68％（2606億㌦）とそれ以外の宇宙探索、宇宙ステーション事業、宇宙輸送などの総称としての衛星以外産業の32％（1229億㌦）となっている。

衛星産業は①衛星サービス②衛星製造③打ち上げ産業（打ち上げロケット製造、打ち上げサービスなど）④地上機器（地球局、衛星通信／管制／電話設備、衛星携帯電話端末／ＧＰＳ端末、ソフトウエアなど）――の4分野に分類されるが、衛星サービスが約半数を占める構造になっている（図3参照）。

衛星産業はもとより、宇宙産業で最も大きな割合を占めるものが衛星サービスだ。同サービスは、「放送・通信」「ポジショニング（測位システム）」「移動体通信サービス」「リモートセンシング」に分類される。

同サービスを進展させているのが地上設備である。これは衛星放送に加え、衛星移動体通信や測位サービスといった情報通信、スマートフォンアプリサービス、気象観測といった衛星を利用したサービスのほとんどが含まれる。

加えて、防災や安全保障などに欠かせない地球観測などのリモートセンシングの設備も増加中で、いまや人々の生活に必須のサービスになっている。

衛星サービス分野では、放送・通信の占める割合が多く、４Ｋ Ｕｌｔｒａ ＨＤ（ＵＨＤ）放送の一層の普及が更なる牽引役になると期待される。（コーポレイトディレクション　奥村文隆）

IP LIVE UTILITY INTEGRATOR
HiTech Systems Limited
リモートプロダクションを実現する最も簡単なソリューション
※当社比
リモートサイト
オーディオ/2W・4Wインカム/タリー/GPIO/RS422・232
IPネットワーク
CCU 1
CCU 2
CCU 3
サブコントロール
フロント
リア
中継先にカメラを置いて、制作は遠隔地の放送局とIPで接続することができ、4K映像は最適なコーデックを使用して IP 伝送を行い、カメラへのタリー、インターカムや RS422 データ等を IP LIVE UTILITY INTEGRATOR で伝送できます。もはや、中継先に多くの機材を輸送するコストやスタッフの人件費を抑えることができる真のリモートプロダクションを実現することができます。
松田通商株式会社
▶http://mtc-japan.com
本　社　〒107-0062　東京都港区南青山3-3-15　MTCビル　Tel: 03(5413)4611　Fax: 03(5413)4618
大阪営業所　Tel:06（6101）2822　Fax: 06(6101）2823　Mail: inquiry@mtc-japan.com

LiveU
12G-SDI 対応
モバイル中継装置
LU600 4K-SDI
●4K-SDI 対応（12G-SDI/3G-SDI x4）
●最大 11 回線ボンディング（内 LTE x8 回線）
●高速起動（約 30sec）
●タッチパネル操作
LU300HEVC
●小型軽量設計
●最大 6 回線ボンディング（内 LTE x4 回線）
●高速起動（約 30sec）
●JOG コントローラ操作
LiveU レンタル好評受付中！！
LiveU 送信機、又は送受一対向をお貸出。（モバイル回線付き）
海外レンタルにも対応、お問い合わせください！
三信電気株式会社 ソリューション営業本部 映像システム営業部
〒108-8404　東京都港区芝 4-4-12　Tel：03-5484-7270 / E-mail：eizo-info@sanshin.co.jp
http://www.sanshin.co.jp/business/solution/vd

Connected Media TOKYO 2019
12 - 14 JUNE

基調講演／展示会
事前登録制
無料

モバイル、ソーシャル、クラウド、ビッグデータで変わるデジタルメディアビジネスを支える総合イベント

コネクティッドメディア　検　索

2019年6月12日(水)▶14日(金)
会場／幕張メッセ

基調講演
会場：国際会議場 2F

聴講無料　Webからの事前登録制

6月12日(水)　KB1-03　11:25-12:05

これからの“放送”はどこに向かうのか?～2030年に向けて～


NHK放送文化研究所
研究主幹
村上 圭子


NHK放送技術研究所
上級研究員
藤沢 寛

6月13日(木)　KB2-02　10:30-12:05

視聴データの今とこの先


（株）テレビ朝日
インターネット・オブ・テレビジョンセンター
ビッグデータ担当部長
松瀬 俊一郎


（株）フジテレビジョン
編成局編成センター局
次長
久保木 準一


（株）電通
ラジオテレビビジネスプロデュース局
ビジネス戦略部長 GM
布瀬川 平

（敬称略）

専門セミナー
会場：国際展示場８ホール　各イベント分野の旬なテーマを解説するCMT専門セミナーです。　聴講無料　Webからの事前登録制

6月12日(水) 11:25-12:05	インターネット発のマスメディアを創るためにAbemaTVが対峙する技術的課題と開発の現場
6月12日(水) 12:20-13:00	民放公式テレビポータル「TVer」の現在と将来
6月12日(水) 16:00-16:40	スマートフォン x スマートテレビ ～地域を元気にする新サービスとビジネスの可能性～（仮）
6月13日(木) 16:00-16:40	日本の映画・テレビドラマにおける最新VFX
6月13日(木) 16:55-17:35	スポーツやエンタメ市場を見据えたインターネットを前提とするデジタルメディア空間

他にも多数の講演を予定しております。

展示会　**2019.6.12 wed** 10:30～18:00 / **13 thu** 10:00～18:00 / **14 fri** 10:00～17:00
基調講演　**2019.6.12 wed** 9:15～ / **13 thu** 9:30～ / **14 fri** 9:30～
主催　Connected Media Tokyo 実行委員会　運営　株式会社 ナノオプト・メディア　運営協力　株式会社 映像新聞社
後援　各関係省庁・関係団体　同時開催　Interop Tokyo / デジタルサイネージ ジャパン / ロケーション ビジネス ジャパン / APPS JAPAN
お問合せ：E-mail / june-info@f2ff.jp　Copyright(C)2019 NANO OPT Media,Inc. All rights reserved.　2019年4月26日（金）時点

米企業が衛星事業を牽引

「SATELLITE 2019会議・展示会」報告〈上〉

ペンス米副大統領が特別講演

初のスタートアップ重視企画も

第38回を迎えた「SATELLITE（サテライト）2019会議・展示会」が、5月6―9日の4日間にわたり、ワシントンDCのウオルターE.コンベンション・センターで開催された。主催したアクセス・インテリジェント・サテライト・グループの発表によれば、参加者は世界100カ国から1万5500人、出展者は352社・団体とのことであった。

（神谷直亮／衛星システム総研代表、メディア・ジャーナリスト）

今年のプログラムは、宙産業を広範囲にサポートする」と述べた。

特別講演、基調講演が各1回、大小のセッションが72回という構成で、セッション重視の方針をとっていた。特別講演に登壇したのはマイク・ペンス副大統領で、基調講演は、A.P.モラー・マースク社のKlaus Bruun-Egeberg モビリティ&コネクティビティ担当部長である。

今回の最大のハイライトは、言うまでもなくマイク・ペンス副大統領の特別講演だ。同副大統領は、会期初日の昼食会の際に登壇して、トランプ政権における経済政策と宇宙産業推進策について30分間にわたり論じた。

まず、「トランプ政権は、2年半の間に580万人の雇用を生み出してきたが、これには宇宙・衛星を含めた高度技術産業の貢献が大である。米国に繁栄をもたらしているのは、わが国に根差す高度技術産業といってよい。トランプ政権は、これからも月への再上陸の実現やペンタゴンに宇宙部隊を創設するなど、宇

続けて「宇宙や衛星ビジネスで、米国がグローバルなリーダーシップをとれているのは、ここに集っている皆さんを含めた業界関係者の尽力による」と会場を盛り上げて拍手を浴びた。

次いで「現在進行中のGEO（静止衛星）からLEO（低軌道周回衛星）への大きなマーケットシフトの段階で、米国の民間企業が衛星と打ち上げサービスの両面で応分の役割を果たすことが非常に重要だ。ホワイトハウスは、この支援策としてライセンスの付与、規制緩和、運用などの面で、不必要なものを極力取り除きストリームライン化を図っている」とした。

また「政府機関と民間企業との間で必要なデータシェアリングを促進する環境を整えつつある。特に、衛星の打ち上げ時や軌道上の衛星との衝突を防止するという安全面から、米軍が保有するデブリ（宇宙ゴミ）のデータと民間企業が取得するデータをシェアする必要性が生じており、これが現時点で最も重要と考えている」と具体的な課題と政策を指摘した。


特別講演に登壇して脚光を浴びたマイク・ペンス副大統領

最後に「トランプ政権は、宇宙戦に備えた宇宙部隊を近いうちに現実なものにする。GPSの運用とサービスで引き続いてリーダーシップを維持する。5Gレースでも米国は必ず勝つ」と力説して締めくくった。

★重要なインフラの提供

A.P.モラー・マースク社のKlaus Bruun-Egeberg部長は、船舶の最新のフリート・マネージメントと技術動向について語った。同社は、デンマーク・コペンハーゲンに本拠を置く海運コングロマリットで「客船やコンテナ船で世界130カ国をカバーしている」という。

このような背景から喫緊の課題として取り上げたのは、グローバルなコネクテッド・オペレーション、クルーのインターネットを含む福祉サービス、アセットのスマート管理で「衛星が重要なインフラを提供している」と述べた。

なお筆者が知る限り、基調講演者は、これまでNASA（米航空宇宙局）やFCC（連邦通信委員会）の関係者と、衛星メーカー、打ち上げサービス事業者、衛星通信機器メーカーのトップが担っており、ユーザーが基調講演で登壇するのは今回が初めてである。

★女性パワーの重視

特別講演、基調講演以外で今回目立ったのは、女性パワーの重視とスタートアップ企業への配慮だ。

38年間のサテライト会議史上初めてとなる8人の女性のみによるセッションは、会期3日目の朝に開かれた。「航空宇宙業界における女性の機能強化と多様性の育成」と題したセッションに登壇したのは、インマルサット、ボール・エアロスペース、ABSグローバル、ステラー・ソリューションなど、航空・宇宙・衛星関連業界や団体を代表する女性幹部である。

登壇者は「各企業に従事する女性の声や労働力が、クリエイティブな課題解決やイノベーションに貢献している。女性の力を活用するという多様性にのっとったチームワークは、成功へのカギである」と異口同音に唱えていた。

具体的な事例としては「インマルサットでは、かつて3%に過ぎなかった女性のエレクトロニクス関連の技術者が、現在11%にまで増え、業績に大いに貢献する大切な資産になっている」といった点が挙げられた。

スタートアップ企業重視の企画は、「CES」「NAB」「IBC」などの大規模コンベンションでは当たり前になっているが、サテライト会議が本格的に打ち出したのは今年が初めてだ。

今回のプログラムで登場したのは、「スタートアップ・スペース・アントルプルヌール（起業家）ピッチ」「サテライト・スタートアップ・ワークショップ・ピッチ」「サテライト101プログラム」の3つ。展示会場に設営された「Unveiled Theater（初公開の場）」で、プレゼンテーションやセッションが開かれた。

★ビッグ5の登場

毎年のように開催されすっかり定着した目玉セッションは、やはり衛星通信・衛星放送業界のビッグ5が登壇する「グローバル・サテライト・オペレーター、今、将来を語る」であった。目新しかったのは、このセッションにも通常の司会者に加えて、3人の女性が質問者として加わっていた。

ビッグ5の登壇者は、ユーテルサット社のルドルフ・ベルマーCEO、SES社のスティーブ・コーラーCEO、バイアサット社のマーク・ダンクバーグCEO、テレサット・カナダ社のダニエル・ゴールドバーグCEO、インテルサット社のステファン・スペングラーCEOで、昨年と変わりがなかった。女性の質問者は、航空会社（Southwest Airlines）、通信事業者（Sprint）、IoTシステム開発事業者（Sigfox）の代表で、それぞれ得意の観点からの質問を発していた。



サテライト会議史上初となる女性8人のみによるセッション

ベルマーCEOは「OTTによるビデオサービスの影響が少ない地域を中心に、衛星による放送サービスを展開する戦略をとり、業績の60%を維持している。HD化、ウルトラHDサービスにも力を入れており、年率2%増を達成した。次のベストソリューションということでLEOにも鋭意取り組んでいる」と述べ、Sigfoxをパートナーにしたleo IoTビジネスに期待を寄せた。

コーラーCEOは「ビデオマーケットでの業績を3分の1に維持しながら、政府機関や大企業のデータマーケットの拡大に注力している。エコシステムの構築に時間がかかっているが、クラウドを活用する衛星ブロードバンド・データーネットワークを主力に業績拡大を狙う」と語った。

ダンクバーグCEOは「バイアサットのメインビジネスは広域ブロードバンドサービスで、今も将来も変わらない。ビジネスモデルを作り上げる上で難しさを感じているのは、ビジネスジェットや旅客機向けのインターネットサービスである。特に複数の航空会社の多くの旅客機に対し、同時にサービスを効率的に提供するには、どのようにしたらよいか検討を重ねている」と、実際4月に開催されたNABショーの際に、ラスベガス空港で発生した欠航トラブルを取り上げて喫緊の問題を提起した。

ゴールドバーグCEOは「テレサットとしては、将来の成長案件としてLEOプロジェクトを積極的に進めている。政府機関、通信事業者向けのバックホールサービス、航空会社向けのIFC（In-Flight-Connectivity）、マリタイムサービスなど、あらゆる分野がLEOによるブロードバンドサービスを必要としている」とLEOへの大きな戦略転換を強調した。

スペングラーCEOは「2つの基本方針を立てている。1つは、EPIC衛星によるきめの細かいグローバルなブロードバンドサービスの拡大。もう1つは、ハードウエアセントリックなビジネスから、ソフトウエアセントリックなビジネスへの転換である」と述べ、衛星通信・衛星放送分野におけるソフトウエアベースの戦略を鮮明にした。

スプリントを代表する質問者から5Gに関連した対応策を聞かれたが、5社とも明確な戦略の表明を控えていた。

衛星による伝送には致命的な遅れの問題があり、高速を誇る5Gに対応するには、成層圏プラットフォーム（HAPS）のような低遅延システムを検討する必要があるように思われた。

スペースシャワーと共同でサービス開始

音楽の使用権をオンライン上で売買できるサービス「Audiostock（オーディオストック）」を運営するクレオフーガ（岡山市北区）は、スペースシャワーネットワーク（東京都港区）と共同で、音楽原盤の二次利用を促進するためのプラットフォーム「Audiostock Artists directed by SPACE SHOWER」を開始した。

音楽事務所やレーベルに所属するアーチストの作品は、一般視聴用に流通する一方で、商用利用の場面では十分に活用されていない状況に両社が着目。クレオフーガが2018年10月から音楽出版事業へ参入し、一般クリエイターがテレビ・ラジオ放送利用における印税受け取りが可能になったことを背景に、サービスの立ち上げを決めたという。

サービス開始時点では、スペースシャワーネットワークに所属する61組のアーチストの作品101曲を含む、約1400曲の作品を提供する。

クレオフーガ

音楽原盤の二次利用 オンライン上で売買

朋栄が内覧会

SDIとIPの混在運用を実演

VGIはFlameやデータ圧縮ソフトを展示

朋栄は16―17日の2日間、都内の同社本社で、「NABショー2019」に出展した新製品を展示する内覧会を開催した。

ビデオスイッチャー「HVS―6000M」は、IP入出力インタフェース「HVS―600OIP―8IO」を実装し、SDIとIPの混在利用が可能なことを実演した。4Kカメラ「FT―ONE―SS4K」は2/3型B4マウントを搭載し、4Kで最大1000フレ/秒の高速度撮影が可能。レンズコンバーターが不要で、PLマウントモデルに比べて4倍明るく撮影できる。


SDI/IP統合制御システム

SDIとIPの統合制御システムの実演では、SMPTE「RDD35」に準拠した形で、12G―SDI入力をTICOで1/4に圧縮し、IP伝送してみせた。

スポーツ制作分野では、Tedial（テディアル）社「スマートライブ」を初披露した。STATS社などによる試合データとAIでメタデータを自動生成し、ハイライト映像を自動作成できる。選手の顔やプレーの種類を指定することもできる。


スマートライブ

グループ会社のビジュアル・グラフィックスは、オートデスク「Flame2020」と、リナックス版のラック型新ハードウエア「Dell Precision 7920Rack」BTO版を展示した。1筐体にストレージ（SSD／NVMe）やI／O（KONA5）を搭載。1台で8Kまで対応する高いパフォーマンスや拡張性、省スペース性を特徴とする。


Flameの新ハードウェア

データ圧縮・解凍アプリケーション「PIXMOVER」「VDrive」は、連番やRAWライフの非可逆圧縮と解凍を管理し、最大80%まで圧縮する。拠点間やクラウドへのデータ転送、コピーといったワークフローを効率化する。

エディットシェア「Qscan」は、項目や品質レベルを設定し、対象ファイルをウォッチフォルダーに入れれば自動でQCできる。メニューは日本語化されブラウザベースで駆動する。

伊藤忠ケーブルシステム

SRTアライアンスへの参加が決定

低遅延伝送技術の普及を目指す

伊藤忠ケーブルシステムは、低遅延のビデオストリーミング技術「SRT」の認知と採用を促進する業界団体「SRTアライアンス」に、映像システムインテグレーターとして参加することを発表した。

SRT（Secure Reliable Transport）とは、カナダのHaivision社が2014年に開発リリースした伝送技術。同社は、高品質で低遅延のエンコーディングを特徴とするH・264／HEVC IPコーデック製品を多く保有しており、その活用を公衆インターネット回線に拡げることを目指していた。

2016年には、WOWZAシステムと共同でSRTオープンソースプロジェクトを立ち上げ、業界にソースを公開した。現在は大手放送機器メーカーをはじめ200社以上が参加している。アライアンスでは、技術開発を加速させ、低遅延インターネットストリーミング規格として普及させるべく活動している。

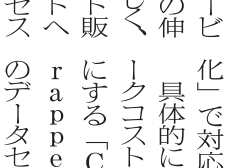
伊藤忠ケーブルシステムは、従来からHaivision社のSRT製品を販売している。エラー補正できる幅が大きいこと、低遅延、ファイヤーウォール越えが可能なことから、放送業界をはじめ映像伝送を求める幅広い市場に訴求してきた。

現在は、インターネット配信やクラウドサービスの利用が拡大し、受信点あるいはクラウドインジェストポイントまで高品位かつ安価に映像を伝送することが求められている。同社はアライアンスへの参加が認められたことにより、国内での普及活動やこの技術を利用した映像伝送ソリューションの提案を積極的に実施していく。

アカマイが事業戦略を発表

メディア配信のコスト削減とセキュリティー強化を重視

米アカマイ・テクノロジーズの日本法人は16日、2019年の事業戦略発表会を開催した。


山野氏

日本法人では3月、マカフィーやEMCジャパンで社長を歴任し、セキュリティー市場で約20年活動してきた山野修氏が職務執行者社長に就任。山野氏は「クラウドやSaaSのニーズが伸び、人々の働き方や5G、IoTなどネットワークとその利用法も変化。今や社内だけでセキュリティーを守るのは難しい」として、CDNとしてさまざまなサービスを提供する同社に参加したと説明した。

現在、日本法人の顧客は588社で、売り上げは15―18年にかけ約2倍に伸長。特にセキュリティービジネスの伸びが著しく、チケット販売サイトへのアクセスの90%がBOT攻撃であることを指摘するなど社会問題にも貢献。リスト型攻撃にも対応している。

山野氏は続いて、セキュリティーとウェブパフォーマンス、メディア配信に関する市場の課題と対応策の概要を説明した。

メディア配信事業では現在、配信の大規模化とともに、大量のトラフィックによるパブリッククラウドのコストが増加。不正アクセスや違法ダウンロードもある。同氏はこれに対し「圧倒的なスケールの配信プラットフォームを提供」「低遅延高品質の配信環境によるユーザーエンゲージメントの向上」「コストの軽減とコンテンツ保護の強化」で対応するとした。

具体的には、ネットワークコストの削減を可能にする「CloudWrapper」と、顧客のデータセンターとアカマイの間を専用線で接続することで、信頼性の高い経路でセキュアに送出できる「Direct Connect」を提供する。

2019年後半に向けては、「クラウドベースのサイト利用者IDの管理」「IoTデバイスとデータセンター間の通信のサポート」「キャッシュレス化と少額決済のニーズに対応できる新型ブロックチェーンの提供」を新たに開始することも発表した。

EXA RENTAL 4K
EXA INTERNATIONAL
中継、システム系機材を中心に、幅広いラインナップの機材をご用意。映像製作現場でのあらゆるニーズにお答えします。　※地方への発送も承ります。


12G/3G/HD ビデオスイッチャ
HVS-1200


4K/HD ビデオライタ
FVW-700-4K


12G-SDI対応
マルチパーパスシグナルプロセッサ
FA-9600


映像/音声遅延時間調整装置
EDA-1000


マルチビューワ
MV-4320


マルチビューワ
MV-1220


4Kモニタ・波形・レコーダー
BVM-X300 / LV5300 / KiPro ULTRA Plus

株式会社エクサインターナショナル　〒107-0052 東京都港区赤坂2丁目16番9号
TEL：03-5575-3911 FAX：03-5575-3910 http://www.exa-int.co.jp/

Sony PCL Inc.
SONY
www.sonypcl.jp
＊SONYおよびその他の名称は、ソニー株式会社の商標です。

NAB SHOW Where Content Comes to Life™ レポート

進化するプロダクションツール

最前線で求められる機能

4月に開催された「NAB（エヌエービー）ショー2019」には、コンテンツ制作の現場用のツールも数多く登場した。デジタル全盛のいま、配信関連のツールに関心が集まるのは当然だが、制作の最前線で求められている機能、技術も数多くある。今回は、NABショーにおいて印象を残した企業や製品について報告する。（杉沼浩司）

★元気なセントラル

NABショーが開催されるラスベガス・コンベンションセンターでは、ホールごとに展示の分野を変えている。

ノースホールは、主催者展示とラジオ関連が中心となる。NHKが8Kを展示するのはこのホールだ。また、スタートアップ企業を集めたコーナーもある。単なるITだけではなく、ITを放送分野に活用する企業もここにある。ATSC3・0の先進的開発に関係する米企業や、信号品質モニターを中心に多面展開するトラフィック・シムがそれだ。静かなホールだけに、時間を掛けて話を聞けるのがこのホールの大きなメリットとなっている。

セントラルホールは、いわゆる「放送機器」が並ぶ。西側には送信機やアンテナ関連の「高出力系」も見られる。ホール中央は、レンズ、カメラといった光学系があり、ホール東側に向かって多様な機器が並ぶ。

以前は、ホール中央を横断するようにパナソニックがブースを構え、東の奥にソニーが陣を敷いた。現在もソニーの布陣は変わらないが、パナソニックは規模を縮小している。

一方で、キヤノンが大きなブースを構えるようになり、動画への力の入れ方が見て取れる。ニコンも動画をにらんだカメラやモーションコントロールシステム（ロボットによる自動撮影環境）を持ち込み、映像制作テクノロジーを示している。このホールにはリーダー電子、アストロデザインといった、規模は小さいながらも光るIよりIPといった風をこのホールで感じる。制作も、サイバー空間で実行する世界が中心で、レンズ、マイクといった現実世界と接するものはほとんど目にしない。エンコーダーを前面に出したNTTグループが日本企業の常連だ。

これらのホールの中で、サウスホールに最も人気が集まるのは当然だが、セントラルホールも関心度が高い。その1つには、現場で触れてみないと分からない機器も多く展示されているからだろう。展示会の意義を再確認させる場所がセントラルホールといえる。まず、セントラルホールの企業から報告する。



クック・オプティックスのアナモルフィックレンズの効果は、輝点の形でわかる（ピントを外して強調）

★新型投入開始

125年以上の歴史を持つレンズメーカーである英クック・オプティックスは、フルフレーム以上の撮像素子に対応した「アナモルフィック／iフルフレーム＋（プラス）」シリーズや、美しいフレアを作り出す「SFシリーズ」の製品出荷を明らかにした。

同社は、昨年まで多くのレンズを発表しており、レズ・ゼラン会長は「昨年まで開発を頑張ってきた。今年は生産の年だ。約束した製品を市場に送り出す」としている。

SFシリーズについては「レンズ配置などは一切変わらない。ただし、ほぼ透明なペットボトルの合成は難しい。背景のグリーンだけを使って抜くと、ペットボトル部分には合成する画像がはめられてしまう。透明感を残しながら合成できる「インビジブル・グリーン・スクリーン・テクノロジー」を開発する英NCAMテクノロジーズは、バーチャルスタジオとの呼び名を良しとしない。

同社は、カメラに取り付ける独自のトラッカーを用いて、高精度のリアルタイム合成を実現する。

昨年のNABショーでは、周囲の光源の状態（色、光量、方向）を合成画像に正確に反映する技術を公開した。今年は、合成画像の画質向上を強調していた。デモでは、グリーンスクリーン前に担当者が立ち、透明なペットボトルを振り、これが視覚上問題なく合成できることを示した。



NCAMテクノロジーズのデモ。ペットボトルのような透明な物体にも良好な合成を提供できる

★制作用

「サイバー制作ツール」を開発する英NCAMテクノロジーズは、バーチャルスタジオとの呼び名を良しとしない。

同社は、カメラに取り付ける独自のトラッカーを用いて、高精度のリアルタイム合成を実現する。

昨年のNABショーでは、周囲の光源の状態（色、光量、方向）を合成画像に正確に反映する技術を公開した。今年は、合成画像の画質向上を強調していた。デモでは、グリーンスクリーン前に担当者が立ち、透明なペットボトルを振り、これが視覚上問題なく合成できることを示した。


Vizrt傘下での製品展開に期待するNewTekのブライアン・オルソン部長

★広がる

ドラマ制作、解説番組など多様なテレビ番組のほか、映画制作にも応用を広げられるとしている。

★NewTek

今年のNABショーでは、日本企業が目に入る。朋栄、池上通信機、富士フイルムもセントラルで肩を並べる。

サウスホールは、IT展示会の意義を再確認させるような機器も多く展示されているからだろう。

コーティングを変えることで美しいフレアを実現した」と説明する。コーティングについては「魔法の粉を使った」と詳細は明かさなかった。

同社のブースには、新たなレンズに触れて、長く語り継がれてきた「クック・ルック」を確認しようという人々が絶え間なく訪れていた。

能な技術」としている。

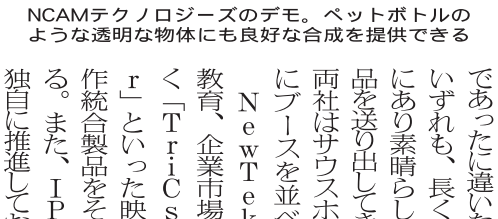
各社が最新機材・技術を競演

★制作用

「サイバー制作ツール」を開発する英NCAMテクノロジーズは、バーチャルスタジオとの呼び名を良しとしない。

同社は、カメラに取り付ける独自のトラッカーを用いて、高精度のリアルタイム合成を実現する。

昨年のNABショーでは、周囲の光源の状態（色、光量、方向）を合成画像に正確に反映する技術を公開した。今年は、合成画像の画質向上を強調していた。デモでは、グリーンスクリーン前に担当者が立ち、透明なペットボトルを振り、これが視覚上問題なく合成できることを示した。



NCAMテクノロジーズのデモ。ペットボトルのような透明な物体にも良好な合成を提供できる

ビジネス面の最大の話題は、ノルウェイのVizrt（ビズ・アール・ティ）による米NewTek（ニューテック）買収であったに違いない。いずれも、長く業界にあり素晴らしい製品を送り出してきた。両社はサウスホールにブースを並べた。

NewTekは、教育、企業市場に強く「TriCaster」といった映像制作統合製品をそろえる。また、IP化を独自に推進しており、同社が規定したIP情報交換体系「NDI」を持つ。この方式は、今回のNABショーでソニーも採用を発表した。ソニーは、最新のPTZカメラにNDIを採用する。

NABショー開始直前の4月1日、VizrtはNewTek買収を発表した。NewTekブランドは存続し、NewTekの社長兼CTOであるアンドリュー・クロス博士は、Vizrtの研究開発全体を統括する役職に就く。

NewTekの広報ディレクターであるスコット・キャロル氏は「NewTekのブランドは維持され、経営・運営は変化がない予定だ」とし、「もちろん、従業員にも変化がない」とリストラなどは予定されていないことを示した。また

のは、カメラに取り付けたトラッカーで3次元データを収集しているためである。

同社は「バーチャルスタジオといった限られた用途ではなく、映像制作のあらゆる場面で利用可



Visual Research Inc.（VRI）日本総代理店　ジャパンマテリアル株式会社　東京都新宿区西新宿 6-12-1 パークウェスト 8F　TEL 03-5323-0820　http://www.jmgs.jp

Panasonic

EVA 3.0 FIRMWARE



NEW EVA 3.0
FIRMWARE UPGRADE

4K60 10-BIT

EVA-LIVE

QUICK SWITCH

ULTIMATE CREATIVITY IN YOUR HANDS



メモリーカード・カメラレコーダー
AU-EVA1
本体希望小売価格 830,000円（税抜）
※レンズおよびマイクロホンは別売です。

https://pro-av.panasonic.net/jp/cinema_camera_varicam_eva/

COMPACT CINEMA CAMERA EVA1

東北映像フェスティバル開催

多様な制作機器が集結

5月30、31日に仙台で
4K・8K、5G時代に対応

東北映像製作社協会は、今年で10回目を迎える「東北映像フェスティバル2019」を5月30、31日の2日間、仙台市青葉区の仙台国際センター展示棟（青葉山コンソーシアム）で開催する。入場無料。

同イベントは、東北地区における最大規模の業界イベントとして、放送関連の最先端機器や映像コンテンツに関する最新情報などに触れることを目的に実施している。

今回の映像機器展には、4K・8Kと5G時代に向けて、各社が撮影から編集・送出・ライブラリー、そして中継・映像配信など、映像制作にかかわる多様な機器を出展する。開催時間は両日とも10―17時。

また、今年で7回目となる「映像コンテスト」の表彰式を30日12時15分から開き、各部門の優秀作品を会場内で上映する。

◆セミナーも実施

展示会場の特設コーナーでは、次の内容でセミナーを実施する。

【5月30日】

《総務省関連施策／11時》「IoT、BigData、AIが切り拓き5Gが更に推進する第4次産業革命と地方創生」（村上憲郎事務所代表取締役、元グーグル米国本社副社長兼グーグル日本法人代表取締役／村上憲郎氏）

《経済産業省プレゼンテーション／13時30分》「コンテンツを活用した地域活性化に向けて」（観光・コンテンツ産業支援室長）

《VIPOプレゼンテーション／14時40分》平成30年度補正予算「コンテンツグローバル需要創出等促進事業費補助金（J―LOD）」（技術部 紅白チーフカメラマン／齋藤努氏、同・制作開発推進部チーフエンジニア 8K紅白TD／菊池太氏）



映像制作にかかわる多様な機器がそろう（写真は昨年の様子）

【5月31日】

《日本映画テレビ技術協会プレゼンテーション／11時》「第69回NHK紅白歌合戦『夢を歌おう』2K4K8Kマルチ制作の舞台裏」（NHK制作技術センター・番組制作技術局 制作技術／瀬野勝夫氏）

《日本照明家協会プレゼンテーション／12時30分》「第69回NHK紅白歌合戦『夢を歌おう』照明の舞台裏」（NHK放送技術部 紅白チーフカメラマン／齋藤努氏、同・制作開発推進部チーフエンジニア 8K紅白TD／菊池太氏）

《YBC山形放送シンポジウム／13時30分》「地域コンテンツを考える」ファシリテーター＝QPR代表取締役・清田智氏、パネリスト＝東北・自治体関連、東北観光金融ネットワーク／秋葉正展氏（山形銀行）、山形放送／青木秀之氏

【詳細】www.tohoku-eiky o. or. jp

東北映像フェスティバル2019出展者　（50音順）

アイ・ディー・エクス	タツタ立井電線
アイ・ディ・ケイ	タムラ製作所
麻布リース	ティアック
アスク/ディストーム	テクノハウス
アストロデザイン	テレコム
ATOMOS	ディストーム
アトラクター	東芝ライテック
アビッド・テクノロジー	日本ビデオシステム
池上通信機	ノイトリック
伊藤忠ケーブルシステム	花岡無線電機
イメージニクス	パナソニックエコソリューションズ
ウシオライティング	パナソニックシステムソリューションズジャパン
A.C.ライティング・アジア	パルス
EIZO	ビデオサービス
エーティコミュニケーションズ	ビデオトロン
エーディテクノ	ヒビノプロオーディオセールスDiv.
SFIリーシング	ヒビノライティング
NEC	フォトロン
エヌ・イー・ピー	富士フイルム
オーディオテクニカ	富士ライト商事
オタリテック	ブラックマジックデザイン
カナレ電気	プロスパー電子
キヤノンマーケティングジャパン	朋栄
共信コミュニケーションズ	ボーズ
クボテック	松田通商
クロスイメージング	松村電機製作所
興和光学	丸茂電機
コスミックエンジニアリング	三友
さくら映機	緑屋電気
サークル	武蔵エスアイ
シグマシステムエンジニアリング	武蔵オプティカルシステム
昭特製作所	MEDIAEDGE
スチューダー・ジャパン-ブロードキャスト	ヤマキ電気
スリー・エム	ヤマハミュージックジャパン
精工技研	リーダー電子
セイコーソリューションズ	ローランド
摂津金属工業	日本映画テレビ技術協会
ソニービジネスソリューション	日本照明家協会東北支部

設計から製造までメイド・イン・Japanの信頼品質
IMAGENICS

HDMI「4K映像」を
自在に4画面レイアウト



■ マルチビューのレイアウトパターンは、任意サイズ／任意配置で、前面ボタンに8つまで登録可能。
■ 登録したパターンは、ワンタッチで呼び出し可能。
■ 入力切替やパターン切替は、黒画面を挟む事なく切替可能。
■ 入力音声レベルの調整が可能。
■ 出力音声の選択、または、ミキシングが可能。

例

イメージニクス株式会社
東京営業所 TEL.03-3464-1401 / 大阪営業所 TEL.06-6354-9599 / 福岡営業所 TEL.092-483-4011　http://www.imagenics.co.jp/

SIMPLY LIVE ▶ ViBoxシリーズ、ビデオサーバーシステム

Vibox シリーズは 3 種類のハードウェアがあり、映像 / 音声処理を行うバックエンドソフトウェアの上に、異なった機能を持つ 4 種のアプリケーションソフトによるシステムです。

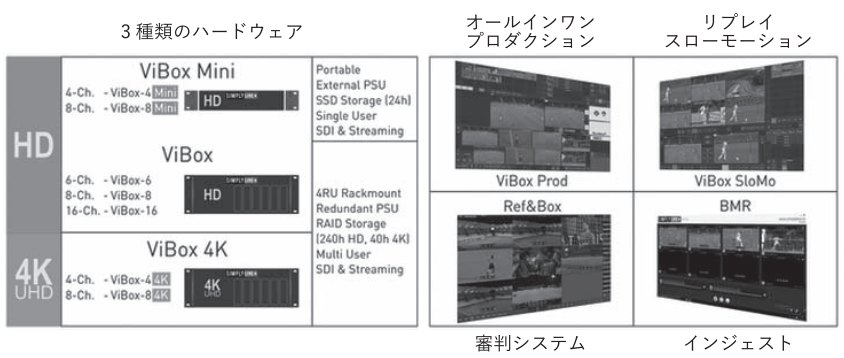
1．**Vibox** オールインワン・プロダクション システム
4/8/16 入力の同時収録、ビデオスイッチング、オーディオミキシング、ダウンストリームキーヤ、撮って出し再生、プレイリスト再生機能

2．**ViBox SloMo** リプレイ／スローモーション システム
4/6 入力の撮って出しスロー専用システム

3．**Ref&Box** ビデオ判定／審判システム
4/8/16 入力の同時収録／再生、選択したアングルのピンチアンドズーム機能を持った審判システム

4．**BMR8** インジェストサーバー システム
8 入力のベースバンド映像を収録し、ファイル化と同時にストリーミングする機能

ViBox SloMo 及び BMR8 には 4K 対応版もあります。





武蔵エスアイ株式会社
〒161-0033　東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 3F
TEL：03-5996-7455　FAX：03-5982-4784
http://www.musashi-si.co.jp

東北映像特集 フェスティバル2019

各社の出典概要

「働き方改革」ソリューションも

パナソニック

パナソニックは、4K制作だけでなく、業界の課題でもある「働き方改革」にもフォーカスし、コンテンツ制作における業務の効率化・サポートをコンセプトに、さまざまな制作システムを展示する。


AG-CX350

主な出展製品は、制作ソリューションとして、4KカムコーダーAG-CX350、4KインテグレーテッドカメラAW-UE150、5・7Kコンパクトシネマカメラ「AU-EVA1」、ライブプロダクションセンター「AV-HLC100」、4Kマルチパーパスカメラ「AK-UB300」、4K12GスイッチャーシステムAV-HS8300／WM84などを展示。

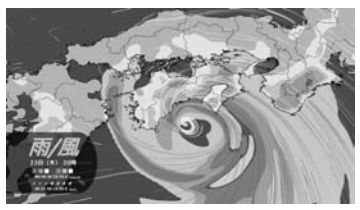

UHK-430

池上通信機

池上通信機は、2/3型4KCMOS3板式カメラ「UHK-430」（MOIP_GWオプションモジュール）をはじめ、4K 12G-SDIマルチプラットフォームスイッチャー「MuPS-5000」、4K／HDマルチフォーマットLCDマスターモニター「HQLM-3125X」、4K／IP伝送対応デジタルFPU装置「PF-900」、ファイルベースシステムなどを出品する。UHK-430は、2/3型8メガ画素のセンサーを搭載。F10（4K／60p）の高感度と高いS／Nを備えている。単板式センサーやピクセルオフセット技術と異なり、ネイティブ4K3板式のセンサーを採用することで、4K超解像度と優れた色再現性を実現した。

クロスイメージング

クロスイメージングは、迅速かつ正確な情報伝達が求められる放送業界のニーズに対応するため、各種情報システムのアプリケーション・ソフトウエアをはじめ、グラフィックスボード、ドライバーや各種デバイスも自社で設計開発し、保守運用サービスまで一貫したソリューションを提供している。


気象情報作画送出システム

今回は、放送局向けとして、新気象情報作画送出システム「NewWeatherStation」、新防災情報作画送出システム「NewDisasterStation」、3D気象情報作画システム「BOLTWeatherStation」など、CATV局向けに防災スーパー送出システム「DisasterCommunityStation」、L字気象防災情報送出システム「MediaCommunity Station」を出展する。

エーディテクノ

エーディテクノは、同社が日本国内正規代理店を務めるDIGITAL FORECAST社がNABショー2019で公開した最新機器を展示する。

HDMI→SDIコンバーター「UHD_HS」は、HDMI2・0信号を12G-SDIとクワッド3G-SDI信号へ変換し、同時出力可能な4K 18Gbps対応製品。


X_TS mini

簡易アナライザー機能搭載コンバーター「X_TS mini」は、5型液晶搭載のHDMI／SDIクロスコンバーターで現在発売中の「X_NEO1_Plus」の上位機種。HDMI／SDIのループスルーチェック機能を新たに搭載した。

また、新製品の4K／30p入出力対応フルHD IPS搭載フィールドモニター3機種、フルHD8・9型IPSパネル搭載の業務用マルチメディアディスプレーSDIモデル、12G-SDI対応4K UHD12・5型IPS液晶パネル搭載モニター、企画中の新製品（参考出品）などを出展する。

ビデオトロン

ビデオトロンは、12G対応マトリックススイッチャー「MTX-70U-1616」、12G対応フレームシンクロナイザー「FS-70U」を参考出展、12G対応ラインシンクロナイザー「AVDL-70Uを展示し、12G信号システムでカラコレ、同期、スイッチングを実演する。

4K制作設備が拡大している中、同社のVBUSモジュールシステムは、12G-SDI対応モデルラインアップを拡充してきた。これにより、4KシステムをVBUSフレームで完結することが可能となった。今後も4K設備を構築する上で鍵となる12G-SDI製品に継続して取り組み、さまざまな提案をしていく。

また、HDMI入力信号のログ取得ができることで、HDMI民生機の長期安定運用が可能なHDMI／DVI to SDIコンバーター「HMS-70」を出展する。


12G対応16×16マトリックススイッチャー　MTX-70U-1616

AI機能利用してコンテンツ管理

共信コミュニケーションズ

「DaAlpsアーカイブ」として、AIを利用した動画文字解析コンテンツ管理システムを出展。入力から出力までコンテンツの管理、解析ができ、自動タグ付け機能を備えている。


DaAlps

「タッチ議会中継システム」は、パネル上の発言者の席をタッチするだけで、議場カメラの操作からスイッチング、氏名テロップ表示まで可能となっている。

「Tally&IncomシステムiPad／iPhoneアプリを活用し、IP網によって低遅延で送り返し、現場においてリアルタイムで確認可能なシステムを構築する。

またレンタル機器として、カメラからの伝送距離最大900kmで、5GHz帯／チャンネル幅20MHzの利用が可能なシステムを提案する。

フォトロン

フォトロンは、「EVSによる、より効率的なライブプロダクションワークフローと新しい演出のご提案」をキーワードに、スポーツライブ中継の感動を4K HDR／HD映像で発信する、最新ハイエンドライブプロダクションサーバー「XT-VIA」と、ソフトウエアベースのフレキシブルなITベーススイッチャー「DYVI」を展示。


XT-VIA（4月のNABショーのEVSブースにて）

XT-VIAは、4K 6ch HD12chのインジェスト／送出を実現。4K XAVCネイティブでのエンコード／デコード、スローリプレイ、マルチカメラプレイバック、プレイリスト編集に加え、4K／HDスーパーモーションカメラ、HDRコンテンツにも対応する。

12G-SDI・32ch　エンベデッドオーディオ


12G オーディオモニタ　SP-VM2-12G-32
ビデオモニタ，ラウドネスモニタ，針式レベルメータ 機能装備


12G オーディオモニタ　SP-VM1-12G-32
ビデオモニタ，ラウドネスモニタ，針式レベルメータ 機能装備


12G オーディオモニタ　SP105-12G-32
ベーシックモデル　AES/EBU 8ch 入力装備


12G オーディオモニタ　SP-PM1 twin-12G-32
ダブルウーハー，針式レベルメータ 機能装備


12G オーディオモニタ　SP-PM1-12G-32
ウーハー，針式レベルメータ 機能装備


12G VUマルチメータ　VUM2-12G-32
4.3型液晶，レベル，リサージュ，スペアナ，位相 他 表示

東北映像フェスティバル 2019　（5/30～5/31 仙台国際センター展示棟）に出展いたします。

株式会社 コスミックエンジニアリング
〒191-0065　東京都日野市旭が丘3-2-11　tel 042-586-2933（代表）　http://www.cosmic-eng.co.jp/　mail: c1000@cosmic-eng.co.jp
●お問い合わせは本社営業部まで　tel 042-586-2933

東北映像特集 フェスティバル2019

各社の出典概要

4K／12G—SDI製品群を展示

武蔵エスアイ

武蔵エスアイは、シンプリーライブ社の6入力2出力のスイッチャー／キーヤー／ビデオサーバーなどの機能を1筐体に収めた「ViBox8オールインワン・プロダクション・システム」および、複数のレコード／プレイチャンネルを持った武蔵エスアイ製マルチチャンネルビデオディスクレコーダー「MVX—4200」を出展する。

4200は、HD—SDI4入力2出力、BNC各出力2分配のモデルとなっている。MVXシリーズは、記録メディアにHDDまたはSSDを選択可能。1—6の入力数により5機種が用意されている。スローコントローラー「MDC—70T」を接続しバリアブルスロー再生ができる。「DCP—73」XDCAMコントローラーも展示する。


DCP-73

朋栄

マルチチャネルビデオサーバー「MBP—1000VS—G2」は、記録用SSDとハードウエアコーデックを搭載したHV3Uサイズビデオサーバー。ハードウエア構成により、HD最大8入力8出力が可能。グラフィックス送出機能を搭載しており、2系統のテロップ送出ができる。

このほか、3M／Eビデオスイッチャー「HVS—2000」、バーチャルスタジオ／リアルタイムCGシステム「VRCAM—NX」、キャラクタージェネレーター「VWS—1000」、高性能共有サーバシステム「EditShareXStream EFS300」（ビジュアル・グラフィックス取扱製品）などの製品をそろえる。


MBP-1000VS-G2

オタリテック

オタリテックは、Riedel Boleroワイヤレスインカム、OTARIの光ファイバー伝送システム「LWB—24 LWB—72 光ジープ」を出展する。

Riedel Boleroワイヤレスインカムは、ライセンスフリーの1・9GHz帯を利用。1台のアンテナに10台までのベルトパックを接続可能。アンテナとベルトパックだけで運用できる〝Standalone〟バージョンと、Artistインカムシステムと統合して使用できる〝Integrated〟バージョンを選択できる。

コスミックエンジニアリング

コスミックエンジニアリングは、中継・制作・送出監視を支えるさまざまな4K／12G—SDI製品群と新機種を発表する。

コンテンツ管理・監視に適した多機能オーディオ・ビデオ・波形モニター、SP—VM2の12G—SDI／AES32chバージョン「SP—VM2—12G—32」を用いた高効率の4K映像・音声監視をデモするほか、12G—SDI対応のオーディオモニター・メーター計6機種を新たに投入する。


SCA-SP5

光ファイバー伝送対応システムカメラアダプターは、新製品の4K／12G—SDIバージョン「SCA—SP5／SCA—BU5」を展示する。

エーティコミュニケーションズ

エーティコミュニケーションズは、映像音声データなど緊急中継にも威力を発揮する、業界最小クラス小型衛星アンテナ「Satcube（サットキューブ）」を展示。同機はノートPCサイズで重量8kgを実現している。

そのほか、機動性に優れた軽量の可搬型衛星アンテナ「QCT90」、「CCT120」や、ハイエースSNG中継車を出展する。


Satcube

スチューダー・ジャパン—ブロードキャスト

スチューダー・ジャパンーブロードキャストは、同社が取り扱うLAWO社のIP関連機器などを中心にグラスバレー社製品も併せて展示する。


V_matrix

主な出展製品は、LAWO製のスタジオ統合コントロールシステム「VSM」、IPコアプラットフォーム「V—matrix」、IPリモートプロダクションソリューション「V—remote4」、マルチビューワーコントローラー「theWALL」、グラスバレー製品では、マルチビューワー「Kaleido—X16」、デジタルレコーダー／プレーヤー「T2 4K ELITE」。

伊藤忠ケーブルシステム

伊藤忠ケーブルシステムは、同社が取り扱う最新の製品・ソリューションを展示する。IHSEからは、高性能デジタルKVMシステム「DracoシリーズI」、マルチスクリーンユニット「K476—4U」を出展。

編集機器では、アビッドの4K対応編集システム「MediaComposer」、素材共有サーバー「NEXIS—PRO」、報道連携システム「Jnews」をデモ。また、送り返し用IP装置として、テクノマセマティカルの超低遅延IP伝送システム、タリー&インターカム用コントロールパネル、Wi—FiSyncViewerなどを展示する。



東北映像
フェスティバル2019
映像機器展・映像コンテスト

会　期：2019年5月30日(木)10:00～17:00
　　2019年5月31日(金)10:00～17:00
会　場：仙台国際センター展示棟(青葉山コンソーシアム)
小間番号：No.60

2019年 出展予定展示会
・ケーブル技術ショー【6/19(水)～6/20(木)】
・関西放送機器展【7/10(水)～7/11(木)】
・九州放送機器展【7/31(水)～8/1(木)】

クロスイメージング株式会社
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-5-1 A-PLACE五反田駅前9F
TEL.03-6417-9190(代表)　FAX.03-6417-9195
http://crossimaging.jp/

IPシステムで効率的な映像制作

ソニー

ソニーは、4月に米国で開催された「NABショー」へ出展した最新商品や、効率的な映像制作を実現する「IP Live（アイピーライブ）プロダクションシステム」を搭載したオールIP中継車など、多岐にわたる製品を展示。次世代放送を見据えた最新製品群およびワークフローを幅広く披露する。


HDC-3500

マルチフォーマットポータブルカメラ「HDC-3500」は、歪みのない高速撮影を実現するグローバルシャッター機能を世界で初めて（同社調べ）備えた新開発の2/3型3板式4Kイメージセンサーを搭載した。スポーツなどの動きの速い被写体の撮影や、高速にパン・チルトした際に威力を発揮する。

イメージニクス

イメージニクスは、4系統の4K HDMI信号をマルチビュー合成して4K HDMI信号へ変換出力ができるスキャンコンバーター「HEV-U41」、同軸1本で4K HDMI信号の伝送を可能にするIMG. Link送受信器「CRO-UIL2T／CRO-UIL2R」、アナログRGBとHDMI信号を状態に応じて自動切り替えし、HDBaseTで出力する「ASE-C21」、壁面取り付けに最適化したHDBaseT送信器HCE-CP1TXと専用電源供給器「PU-PH1」などを実演する。


HEV-U41

アスク／ディストーム

アスク／ディストームブースは共同ブースで、米NewTekが推進する最新のNDIに対応したライブ映像プロダクション製品および周辺機器やソフトウエアを展示する。


3Play 3P1

主な出展製品は、ライブ映像プロダクションシステム「TriCaster TC1」、スロー／リプレイシステム「3Play 3P1」、業務用SkypeTXを利用した相互通信システム「TalkShow」、NDI—HX対応PTZカメラ「NDI PTZCamera」、NDIコンバーター「Connect Spark」。

このほか、NABショーで発表した新製品として、NDIバージョン「NDI4」、「Premium Access」（TriCaster機能拡張ソフト）の新機能「VMCソフトウエア」などを出展する。

リーダー電子

リーダー電子は、波形モニターZENシリーズや、シンクジェネレーター、チェンジオーバーなど4K・2Kシステムを出展する。

波形モニター「LV5600」、ラスタライザー「LV7600」は、SDIとIPに対応したハイブリッドタイプ。


LV5600

「LV5350」は、SDIに特化したポータブルタイプの波形モニター。SDI信号は12G／6G／3G／HD／SD—SDIに対応する。タッチパネル、遠隔操作など操作機能の充実や、フリーレイアウト機能により表示画面を自由に編集できるなど、使いやすさもこだわっている。

シンクジェネレーター「LT4610」は、電源ユニットを2個内蔵。電源の二重化冗長運転ができ、標準仕様でゲンロック機能、3系統アナログブラック同期信号出力、オーディオワードクロック信号出力を装備。

松田通商

松田通商は、Clear-ComのEclipse HXシリーズとして、カラー表示でAES67にも対応したV—Series Irisパネルを実演する。


Clear-Com V-Series Irisパネル

このほか、ビデオの光伝送装置「MultiDyne」、12G—SDIビデオトランシーバー「SilverBullet」などを出展する。

エヌ・イー・ピー

エヌ・イー・ピーは、バッテリー関係、レインカバー、LEDライトなど、放送機器のアクセサリーを中心に展示する。


Li-D98M-S

目玉商品としては、従来比47%サイズダウンしたスーパーミニVマウントバッテリーを発表。同バッテリーは120Wまでの高負荷にも対応している。

また、逆ざしてもショートしないDタップケーブルシリーズ、モニターなどを載せる超強力アーム、リモコンで調光・調色可能なLEDライト、LCDモニターを直視できるレインカバー、カーボン製ブームポールなど新商品を披露する。

アストロデザイン

アストロデザインは、ウェアラブルカメラ「BodyCamera」、8Kカムコーダー「8C—B60A」、POSTIUM製モニター、マルチビューワーなどを出展する。


BodyCamera

BodyCameraは、遠隔地の映像を4G LTE回線を使って転送できるウェアラブルカメラ。GPSおよびジオタグ機能も搭載している。

8C—B60Aは、8Kの「撮影」「収録」「再生」「ライン出力」が可能なカメラ。撮影収録システムを一体化して大幅に小型化するとともに、ワークフローの大幅な改善を実現した。

撮影時のリアルタイム出力により8Kライブ配信にも対応。ショルダータイプのデザインで、可搬性を向上させ、撮影スタイルの多様性にも対応している。

東北映像フェスティバル2019 特集

各社の出典概要

8K配信にも対応した小型カメラ

Ginza Sakuraya
TOTAL AV SOLUTION

ハイクオリティな映像表現に必要な機器のすべてを、
トータルにサポートできる豊富なラインナップと技術力。

それが、プロフェッショナルたちに選ばれる理由。

Capturing 撮る
Editing つなぐ
▶▶ 銀座サクラヤのCESコンセプト Showing 見せる



映像・音響機器のレンタル・販売　株式会社 銀座サクラヤ
http://www.ginzasakuraya.com

次世代 DISPLAY 最新動向 159

大型LEDディスプレーが相次ぎ稼働
最大画面のクリスタルLED

高画質・高精細・大画面の大型ディスプレーの導入が進展している。今年4月、機種・製品別で世界最大級の画面サイズをうたう大型LEDディスプレーが、相次いで設置された。ハードウエアに加えて、その大型ディスプレーの特徴を最大限に生かすコンテンツ制作も重要なビジネスとなっている。

（杉山平和・ディスプレー評論家）

●資生堂の新研究所

4月13日にオープンしたのが、横浜市西区のみなとみらい21地区の資生堂の新研究所「資生堂グローバルイノベーションセンター（S／PARK（エスパーク））」である。この施設に設置されたソニー製「Crystal LED ディスプレイシステム」（クリスタルLED）は、16K×4Kで横19・2㍍×高さ5・4㍍（約104平方㍍）のワイド大画面となっており、クリスタルLED製品としては世界最大という。

映像コンテンツは、ソニーPCLが企画制作した。ソニーPCLでは、このクリスタルLEDならではの高画質と、壁一面に広がるスケールを最大限に生かした臨場感あふれる映像表現を目指し、多様な動物を実物大で表現した16Kコンテンツを完成させている。

資生堂の研究所であるこの施設は、1階と2階は誰でも入れるパブリックスペースになっており、1階にはカフェ、2階には資生堂のミュージアムが設置されている。

クリスタルLEDは、1階と2階を階段で結ぶエントランスホールで稼働し、その巨大な映像には訪れる誰もが目を見張る。クリスタルLEDの特徴を生かした形で制作されたコンテンツは、この場所に見事にマッチし、企業のイメージアップとして十分に機能している。

巨大な大型映像システムが各地に導入され、そのコンテンツとして8Kを超えるオリジナルの高画質映像が制作されるようになった。羽田空港国際線ターミナルの36面液晶マルチビジョン（シャープ製／コンテンツ制作＝インディアンソシエーツ）、セガサミーの新社屋の大型LEDビジョン（赤見電機製／同＝ティーアンドエス）、エプソングループ新宿のプロジェクションマッピング（エプソン製／同＝タケナカなど）などの事例が挙げられる。

ソニーPCLでは、北海道函館市が運営する「はこだてみらい館」（2016年10月5日オープン）に導入された、縦2・4㍍×横14・4㍍の1・9㍉ピッチ巨大超高精細LEDディスプレー（レイヤード製）を利用したメディアウォールをプロデュースした実績もある。ここでは、制作会社WOWによるインタラクティブ（キネクト使用）コンテンツが随時上映されている。


資生堂グローバルイノベーションセンター（S/PARK）に導入された「Crystal LED ディスプレイシステム」。この施設のプロデュースは、小山薫堂氏（ORANGE AND PARTNERS）、デザインを佐藤オオキ氏（nendo）が担当した

交通広告初のCOB型も稼働
加速する五輪向け製品の生産

●交通広告にCOB型

東京急行電鉄と東急エージェンシー（東急グループ）は、4月22日から田園都市線渋谷駅の改札に通じる通路で、「ビッグサイネージプレミアム」の運用を開始した。交通広告としては、業界で初めてCOB（チップオンボード）型1・9㍉ファインピッチLEDビジョン（LEDMAN製）を採用。サイズは高さ約2㍍、幅約25㍍、面積約50平方㍍で、OOH（交通広告・屋外広告）のCOB型LEDビジョンとして世界最大サイズである。

5月中旬時点で、この大型ディスプレーによる放映CMの多くは、パナソニックの東京五輪へ向けてのプロモーション映像であった。同ディスプレーの上部には光を使ったパナソニックの新しい情報コミュニケーションツール「LinkRay」を設置。スマートフォンなどと連動した双方向配信にも対応可能な機能を実装させることで、拡張性を持たせた次世代メディアとして活用する。

このディスプレーシステムの設置は、パナソニックグループ企業のピーディーシー（PDC）が手掛けた。もちろん東急グループでは、パナソニックに限らず多くの企業に幅広く「ビッグサイネージプレミアム」の活用を提案している。

COB方式採用の理由として、東急グループでは「認角度、耐衝撃性、表示面防水性などにおいて、従来のSMD（表面実装）方式を凌駕（りょうが）する新世代LEDディスプレー」と高く評価したという。

この大型ディスプレーは、不特定多数の人が常時通行している場所に設置されているため、画面を触る人がいることも十分に考えられる。その点ではCOB方式大型ディスプレーの特徴である「堅ろう性」は重要なアイテムとなる。

また、COB方式は高精細化にも有利な技術ともいわれていることから、4Kや8Kなどの高精細映像の時代にマッチした大型ディスプレーの導入事例といえるだろう。

●五輪に向けた製品

パナソニックでは、来年の東京五輪に向けて、国産大型LEDディスプレーの自社生産を加速させている。

東京五輪の各屋外競技会場で主に利用される予定のパナソニック製の大型LEDディスプレーは、以前からパナソニック製の大型LEDディスプレーを生産していた旧・鹿児島松下電子の流れをくむパナソニックセミコンダクターソリューションズ社（京都府長岡京市）で生産する。大型映像用のLED素子は、以前は鹿児島松下電子製もあったが、生産を取りやめているため、現状で唯一の日本製品である日亜化学工業製を採用している。

現在の生産拠点は長岡京市であり、パナソニックでは完全メイドインジャパン製品ということをセールスポイントにしている。このほか、メインスタジアムなど常設向け大型LEDディスプレーの生産も、協力会社を含め各地で日本製として急ピッチで進めているという。


東急田園都市線渋谷駅のCOB型LEDビジョン「ビッグサイネージプレミアム」

ピクセルピッチが8㍉、輝度は屋外使用にも最適な白表示で初期値5000㌢／平方㍍を実現している。1ユニットあたりの外形寸法は幅640㍉×高さ640㍉×奥行き116・7㍉、質量約25㌔、消費電力約600㍗である。

このLEDディスプレーは、以前からパナソニック製の大型LEDディスプレーを生産していた旧・鹿児島松下電子の流れをくむパナソニックセミコンダクターソリューションズ社（京都府長岡京市）で生産する。大型映像用のLED素子は、以前は鹿児島松下電子製もあったが、生産を取りやめているため、現状で唯一の日本製品である日亜化学工業製を採用している。

現在の生産拠点は長岡京市であり、パナソニックでは完全メイドインジャパン製品ということをセールスポイントにしている。このほか、メインスタジアムなど常設向け大型LEDディスプレーの生産も、協力会社を含め各地で日本製として急ピッチで進めているという。

ジャパンディスプレイ

5年連続の最終赤字
外資の支援を仰ぐ

液晶ディスプレー国内製造販売大手のジャパンディスプレイ（JDI）は、5月15日に2019年3月期の連結決算を発表。最終損益は1094億円の赤字だった。最終赤字は5年連続となり、病気療養中の東入来信博会長兼CEO（最高経営責任者）が15日付で退任し、16日付で月崎義幸社長がCEOを兼務することになった。主力のスマートフォン向け液晶パネルの販売が低迷したことが主な赤字の要因として挙げられる。


JDIは展示会でVR用のHMD端末をPRしていた

同社は、オールジャパン体制として鳴り物入りで発足したが、これにより台湾資本など外資の支援を仰ぐことになった。歴代社長の中には有賀修一氏などエプソン出身の実力者も就任したが、経営再建には至らなかった。アップル1社に頼る体質から抜け出さない限り、今後の経営も厳しいとみられている。

最近、展示会でJDIが出展する製品で目にするのが、VR（仮想現実）用のHMD（ヘッドマウントディスプレー）端末である。同社では、新規事業として期待を寄せている。

デジタルコンテンツ白書2018

激動の真っただ中にあるコンテンツビジネスの"いま"を知る必携の書

2018年度版白書の特集では、近年のスポーツを取り巻く環境の変化について様々な観点から紹介するとともに、スポーツというコンテンツの可能性について提示しています。他の章では、2017年の日本のコンテンツ産業の市場規模や、コンテンツ分野別動向、メディア分野別動向、海外動向を明らかにしています。

●仕様：A4変型192頁　●定価：12,000円（税別、送料別途）
●発行日：2018年9月1日　●編集・発行：一般財団法人デジタルコンテンツ協会　●販売：映像新聞社



映像新聞ウェブサイトからご購入いただけます　http://www.eizoshimbun.com/online_subscription/dcwp.htm

●ご購入に関してのお問い合わせ●　株式会社 映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル　TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581　e-mail:info@eizoshimbun.com

映像入札王のご案内

映像新聞社では、株式会社ズノーと業務提携し、同社の展開する入札情報提供サービスと連携した「映像入札王」を提供いたします。

全国の入札情報を毎日メールでお届け！
膨大な数の入札･落札公告から効率的な情報入手!!

入札王
入札情報提供サービス

映像入札王とは？

**中央省庁、独立行政法人、地方自治体等の入札情報を提供するサービスです。
映像制作・関連機器、ホームページ制作、広告制作、情報処理、調査等あらゆる分野の最新の入札情報を毎日ご提供します。**

その特長は

1 業界最大級の網羅性

全国の発注機関（6,600 機関 10,000 サイト以上）を網羅。
専門スタッフの手動収集とプログラム収集の併用で収集漏れを回避。

2 案件見逃しの防止

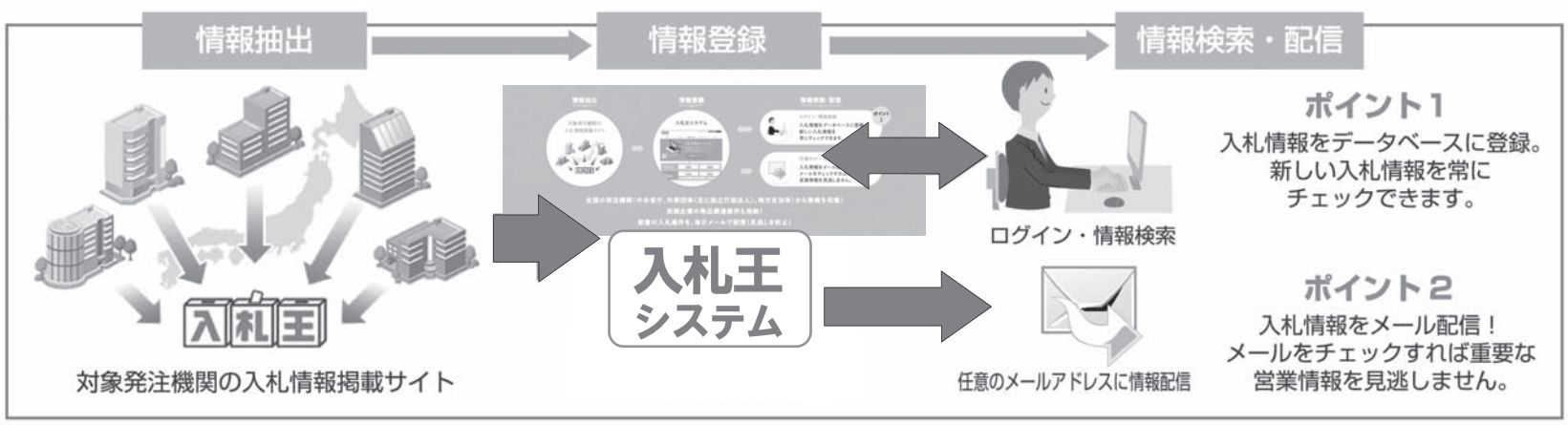
キーワードに左右されないカテゴリー検索、公告の中身まで検索する全文検索、最新案件をお届けするメール配信サービス。

3 充実のサポート体制

検索の設定代行、電話・メールによるアフターフォロー、訪問デモによる操作説明、入札参加資格の申請代行（パートナー紹介）など、入札王には万全のサポート体制が整っています。

4 リーズナブルな選べる料金プラン

入札王の料金プランは地域選択制で、お客様が自由に都道府県を選ぶことができます。「東京」「大阪」「福岡」といった飛び石での指定も OK ですので、無駄な経費が抑えられます。



10 日間 お試し
無料トライアル実施中

トライアル期間で入札王の
効果を実感してください

http://www.eizoshimbun.com

上記 URL からのエントリーで割り引き適用となります

●『映像新聞』購読の方は、下記料金から 5%引きとなります●

料金表

入札王の料金表（税別）は次のとおりです。

発注地域の選択数	契約期間6ヶ月	1ヶ月あたり料金	契約期間12ヶ月	1ヶ月あたり料金
3都道府県	¥55,000	¥9,167	¥95,000	¥7,917
4都道府県	¥71,000	¥11,834	¥125,000	¥10,417
5都道府県	¥88,000	¥14,667	¥155,000	¥12,917
6都道府県	¥105,000	¥17,500	¥185,000	¥15,417
7都道府県	¥121,000	¥20,167	¥215,000	¥17,917
8都道府県	¥138,000	¥23,000	¥245,000	¥20,417
9都道府県	¥155,000	¥25,833	¥275,000	¥22,917
10都道府県	¥163,500	¥27,250	¥290,500	¥24,208
20都道府県	¥243,000	¥40,500	¥434,000	¥36,167
30都道府県	¥272,000	¥45,333	¥473,000	¥39,417
40都道府県	¥291,250	¥48,542	¥502,500	¥41,875
47都道府県	¥300,000	¥50,000	¥520,000	¥43,333

※15 都道府県、27 都道府県等もございますのでお問い合わせください。　（税別）

●お問い合わせはこちらへ。
株式会社ズノー 入札王事務局　〒106-0044 東京都港区東麻布 1 丁目 5-2 ザイマックス東麻布ビル 2F　TEL：(03) 6441-0332 ／ FAX：(03) 6441-0336

現代社会において避けて通れないものの1つに老人問題があり、それを取り上げたのが『長いお別れ』（中野量太監督、127分）だ。近年、非常に注目され、厄介な問題として社会化している認知症について触れる作品であり、その病気の在り方や、その対処の仕方について考えさせられる。タイトルの『長いお別れ』は、英語では「Long good bye」である。

（中川洋吉・映画評論家）

「長いお別れ」

記憶を失っていく父と家族たちの愛

見えてくる老人介護の実情



『長いお別れ』（家族全員）
©2019『長いお別れ』製作委員会　©中島京子／文藝春秋　（以下同じ）

冒頭、遊園地のメリーゴーランドが音楽に合わせ回転する。そこに1人の幼女が乗せろと粘って、係員を困らせている。規則によれば、一定年齢以下の子供は親の付き添いがなければ乗れない。渋々諦める少女。この出だし、後の伏線となる。

◆東（ひがし）家の面々

時代は1970年。東京の郊外の一軒家で、主婦の曜子（松原千恵子）が電話で話している。夫、昇平（山崎務）の70歳の誕生祝いに、娘2人を呼び出すための連絡だ。

近所に次女の芙美（蒼井優）が住み、姉の麻里（竹内結子）は、夫の仕事の都合で米国暮し。娘2人は突然の電話に驚き、何を今更誕生会と真意を疑いながら、やれやれとの風情で実家に駆け付ける。特に現在米国住まいの麻里は、息子の崇を伴っての帰国だ。実は、母親の電話の真意は、進行する父の認知症の相談であった。

麻里は憧れの外国暮しではあるが、異国の生活になじめない様子。芙美は利発な性格で、将来、カフェ開設の希望を持っている。この彼女、今はスーパーの野菜担当で、後に移動ワゴン車の有機カレー販売を始めるが、都心ではないため客足はまばらである。

母親の曜子は、ご亭主大事の専業主婦。一家の主人、昇平は元中学校校長で半年前から認知症を患っている。堅物で勤言実直な彼は、一日中、気難しい顔をして読書に専念しているものの、時折、本の上下が逆さになり、本当に読書をしているのか怪しい。

昔は国語教師だったのだろうか、漢字には非常に詳しく、孫の崇がご機嫌取りで質問をすると、ニコニコ顔で教えてやるほどだ。しかし、人の顔は思い出さず、食べ物の好き嫌いは激しく、妻を手こずらせている。そして、決まり文句は「帰りたい」だ。しかし、家族一同、彼がどこへ帰りたいのかさっぱり分からない。

◆ボケとボケの間

ひどい認知症の症状を見せる一方、老人教室では、お得意の漢字を教えたり、歌の指導をしたりと、すこぶるご機嫌の昇平。この落差の大きさに周囲は悩まされる。

認知症でも一時的に正常な記憶を取り戻す時があり、これを「まだらボケ」と呼ぶようだ。

◆打ち続く徘徊騒動

ある時、昇平はお得意の「帰る」という台詞（せりふ）を残し、行方不明になる。家族は大慌てで、手分けし彼を探す。彼は川辺で米国帰りの孫の崇と、芙美の中学時代の同級生である道彦と一緒に談笑している。この同級生が昇平を見付けてくれたのだ。

今は移動ワゴン車で有機カレー販売をしている芙美は、のんびりと並んで座っている3人を見て、安心したり気抜けしたりと、気の休まる間がない。

さらに昇平は、芙美のワゴンの前に、川辺を散歩する人を一列に並ばせ、販売の手伝いまでする。認知症独特の〝陽〟の部分も、作り手の描かんとするところであろう。この病、どうも付き合い方があるようだ。



誕生祝い



母と娘２人

女性の負担の大きさを暗に指摘

麻里は英語がよく分からず、夫は仕事人間で、家の中のコミュニケーションも欠けがち。息子は段々と生意気になり、麻里をイラつかせる。憧れの駐在員の奥様のはずが、目算狂い。

芙美は行動的で、将来の計画もあるが、父親の認知症で先行きが怪しくなり始める。母親はお父さん大事でオロオロ、父親の徘徊回数も最近めっきり増える。家族全員が、生活の中心を失いつつある。

◆葬式

ある日、昇平の旧友の葬式がある。亡くなった友人が誰なのかさっぱり思い出せぬまま、芙美に連れられお寺へ行く。何が何だか分からぬまま喪服を着せられ、不機嫌な面持ちで座る昇平。そこへ、中学時代の柔道部の親友が「やあ、久しぶり」と懐かし気に語り掛ける。

昔の柔道部の話を一生懸命する友人は、昇平に弔辞を託す。しかし、彼にとり、全く思い出せない故人の弔辞は無理で、付き添いの芙美は恥ずかしさと、父の認知症で身が縮む思い。その場の芙美の表情が、誠にサマになっている。若くしてこの芝居を演じられる蒼井優の力量が光る。

◆記憶のよみがえり

いつも気難しい昇平だが、彼が帰りたがっていた生家へ妻の曜子と出かける。しかし、彼自身は全く思い出せない。

帰りの列車の中で昇平は、1964年開催の東京オリンピック時にプロポーズした思い出を語り始める。これほどプロポーズのことを覚えているとは、呆気（あっけ）にとられる曜子。とにかく落差が激しい。家族皆が彼に振り回される深刻な状況と、その合間に見せるハレの日の思い出――。

原作者、中島京子の実体験がベースとなっている。仕事を持つ女性が、働きながら老親の面倒を見、最後は親を老人ホームへ入れる実例を筆者もいくつか目にしており、これが実情と思われる。しかし、本作では、老人ホーム入所前までの物語にとどめている。

◆それぞれの家族

ある日、昇平はまたもや徘徊し、家族を慌てさせるが、今回はGPS携帯を頼りに、彼の所在を簡単に割り出す。

彼はメリーゴーランドの木馬に乗り、ご機嫌の様子。傍らには2人の少女が居る。そこに冒頭の遊園地場面が再現され、3本の傘が目に入る。迎えの曜子はそれを見て、雨模様の時、傘を持ち迎えに来た在りし日の、夫の元気な姿を思い出す。

気難しい彼だが、孫の崇や子供と接する時に、一瞬ニコニコと笑顔を見せる。

◆妻の入院

曜子が網膜剥離で入院、手術、その上、昇平が足を骨折し、妻と同じ病院に入院する。2人の病人を抱える家族は、昇平の老人ホーム送りが頭にちらりと浮かぶ。

芙美は、在米国の姉に代わり、自分が面倒を見ることを申し出る。その志は良しとせねばならぬが、昇平がお漏らしをし、彼女が面倒をみる。そこで、芙美は介護の現実の一端に否応なく直面する。内心たじろぐ芙美、しかし、意地と俠気（きょうき）で昇平を受け入れる。

ここで見えてくるのは、わが国における介護の実情である。認知症をはじめとする高齢者介護は、当初は家族で対処し、その後、施設に入れるのが一般的である。しかし、その介護のほとんどが女性の負担であることが問題である。必然的に女性を家に閉じ込め、社会へ出て働く意思を持つ彼女らを疎外している現状に対する、作り手の隠れた指摘と受け止められる。つまり、作者（原作者および監督）は、暗に制度としての老人問題の充実を提案していることが、本作から読み取れる。

われわれ国民、そして、お上が考えねばならぬ問題だ。含蓄（がんちく）に富む1作である。

〈文中敬称略〉

――――

■『長いお別れ』は、5月31日から全国ロードショー

映像新聞無料メールマガジン
Vizcom
映像新聞がお届けするメールマガジン「Vizcom」は、ビジネスに役立つ情報をいち早くご提供していきます。映像新聞および、映像新聞ウェブサイトも同様にご愛顧ください。
配信登録は
www.eizoshimbun.com

発売中
映像新聞 縮刷版
2018年後期版（7月～12月）
半年分の映像新聞を1冊にまとめた「2018年後期縮刷版」が発行となりました。めまぐるしく変化する映像業界の動向を集約する「映像新聞縮刷版」は、目次には、ジャンルごとに項目を掲載し、業界の動向が簡単に索引できるようになっております。企業のビジネス戦略において、貴重な情報ツールとして、また、保存版の映像新聞として広くご利用いただいております。
仕様：A4判／価格：7,000円（税別、送料別途）


ご購入は映像新聞ウェブサイトからお申し込みいただけます　www.eizoshimbun.com
アマゾン（www.amazon.co.jp）、富士山マガジンサービス（www.fujisan.co.jp）からもご購入いただけます
●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ
株式会社映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾ-ビル／TEL：03-3942-2161／FAX 03-3942-2581　e-mail：info@eizoshimbun.com

「情報」がビジネスを熱くする。

映像新聞は、放送やブロードバンド、デジタルコンテンツプロダクション、映像制作者など映像業界へ向け、ビジネスとテクノロジーの両視点で情報を発信している専門紙です。映像のデジタル化は、デジタル放送やデジタルシネマといった新しい文化を創り、ブロードバンドにより新しいコミュニケーションを発達させました。映像新聞は、これらの動きをいち早く伝え、新鮮な情報をお届けいたします。
ビジネスを熱くするメディア……それが「映像新聞」です。

映像新聞

毎週月曜日、月4回発行（年間48回発行）
基本ページ数
20ページ／タブロイド判
年間購読料：26,000円（送料込み）＋消費税
海外での購読の場合は、消費税分を除いた料金に別途送料がかかります。　詳しくはお問い合わせ下さい。

短期購読および複数購読のご案内

●短期購読の場合
◎3カ月購読の場合：7,200円（1部600円×12回）＋消費税
◎6カ月購読の場合：14,400円（1部×24回＋消費税）

●複数購読の場合（年間購読契約のみ）
対象となる購読者（以下の3つの条件をすべてを満たすこと）
◎送付先が同一であること
◎請求先が同一であること（送付先とは別でも可）
◎購読契約期間（契約更新月）が同一であること

※料金（申し込み部数により料金を割引きます）
・2–5部は**10%**割引き　（1部、年間23,400円＋消費税）
・6–9部は**20%**割引き　（1部、年間20,800円＋消費税）
・10部以上は**30%**割引き（1部、年間18,200円＋消費税）

ご注意　ご住所、貴社名、所属部門、ご担当者氏名、連絡先をご記入の上、FAXでお送りください。請求書を発行いたします。

✓□を入れてＦＡＸ 03-3942-2581 までどうぞ　　年　月　日

□　映像新聞年間購読　　月号から　　部
□　映像新聞短期購読　　3・6　ヶ月　　部
□　映像新聞見本紙　　1部

送付先

貴　社　名
所属・役職　　氏　　名
住　　所　〒（　　－　　）
電　　話　（　　）　　－　　ＦＡＸ（　　）　　－
Ｅ－mail

請求先（送付先と異なる場合）

住　　所　〒（　　－　　）
電　　話　（　　）　　－　　担　当　者

ウェブサイトからもお申し込みができます　http://www.eizoshimbun.com

●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ。
映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル　TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581　e-mail：info@eizoshimbun.com

東京・大阪でプライベートショー
4K・8K製品主力に
リーダー電子　セミナーも実施

リーダー電子は、「プライベートショー2019」を東京（6月12、13日）と大阪（7月1、2日）で開き、新製品と主力製品の展示会および講演・技術セミナーを実施する。入場・受講は無料。

新機種である8K対応波形モニター「LV590」、「ZENシリーズ」に追加された4K-IP（25G）モニター／ジェネレーターおよび「LT4610」の8K対応などを4K・8K製品を主力に披露する。

講演・技術セミナーの内容は、基調講演「将来の放送の発展への期待」（元NHK放送技術研究所所長黒田徹氏）、技術セミナー1「SDI技術者のためのIP講座」（リーダー電子 技術開発部）、技術セミナー2「カラリストによる4K HDRグレーディングについて」（IMAGICA Lab. カラリスト 関口正人氏、山根暁子氏）となっている（受講は事前登録制）。

【東京】6月12、13日／10時―17時30分（13日は17時まで）▽会場＝トラストシティ カンファレンス・丸の内（東京都千代田区丸の内1―8―1 丸の内トラストタワーN館11階）

【大阪】7月1、2日／10時―17時30分（2日は16時30分まで）▽会場＝大阪市淀川区宮原4―2―1 ホテルメルパルク大阪3階）

【詳細・申し込み】www.leader.co.jp/event

池上通信機
放送機器の内覧会
技術セミナーも開く

池上通信機は6月13、14日の2日間、最新の放送映像機器を展示する「放送映像機器内覧会2019―Ikegami Broadcast Equipment―」を都内で実施する。併せて技術セミナーを開く。

セミナーは、13日が「IP技術の放送設備への応用と実際～『相互接続検証』で判明したIP化の普及における課題と展望～」、「新しくなったMediaCompos er2019とIkegamiの4Kマスターモニタの紹介」、14日が「IP技術の放送設備への応用と実際～諸外国のスポーツ中継とIP化の動向～」となっている。

［主な出展機器］▽4K／HDマルチパーパスカメラ▽4K／HDスタジオカメラ▽31型4K UHD LCDマスターモニター▽HDR対応HD LCDモニター▽4K／HDマルチプラットフォームスイッチャー▽4K・IP伝送対応デュアルモード・デジタルFPU装置

【日時】6月13、14日／10時―18時（14日は17時まで）

【会場】ビジョンセンター東京（八重洲南口）6階 Vision Hall（東京都中央区八重洲2―7―12 ヒューリック京橋ビル）

【展示会の詳細／セミナーの申し込み】global.ikegami.co.jp/php/link.php?q=61RW3B6UJ31VFjIeMDKePSdJSN5WQL

ビデオリサーチ
「テレビ調査白書」
2018年版を発行

ビデオリサーチは、2018年のテレビ視聴率・テレビ広告の動向をまとめた『テレビ調査白書2018』を発刊した。同書では、「テレビ視聴率、広告の動向」に加え、平成を振り返る特集「ありがとう・さようなら 平成～データで振り返る平成のテレビ30年史～」として、平成30年でのテレビの見られ方の変化、どんな番組がよく見られたのかなどをまとめている。

18年の関東地区のランキングでは、どんな番組（ジャンル）がライブ視聴され、タイムシフト視聴されたのかを解説。また、関東・関西・名古屋地区におけるエリアごとのタイムシフト視聴時間のジャンル別シェアから見えてくる、タイムシフト視聴の特徴や傾向などを報告している。

◆『テレビ調査白書2018』B5版（180ページ）、価格5400円

【申し込み】video.webtools.biz/tvaudience_advertising2018

映画「ドラゴンボール」題材に
Tooがアニメ制作ワークフローセミナーを開催

Tooは、「あにつく2019」連動企画 アニメ制作ワークフローセミナーの第20弾として、「映画『ドラゴンボール超 ブロリー』メイキングセミナー」を6月5日に都内で開く。

同セミナーは、アニメ・映像制作に携わる人や制作に3DCGツールの導入を検討中の人を対象に、オートデスク製品を中核とするデジタルでのアニメ制作ワークフローを解説するもの。

今回は、講師として東映アニメーション デジタル映像部の福長卓也氏（ラインプロデューサー）および牧野快氏（チーフデザイナー）が登壇。アニメーション制作における現場でのエピソードやCG制作フローなどについて語る。受講は無料。

【日時】6月5日／15―18時

【会場】ソラシティカンファレンスセンター sola city Hall EAST（東京都千代田区神田駿河台4―6）

【定員】200人（事前予約制）

【詳細・申し込み】www.too.com/event/y2019/dragonball

ストロベリーメディアーツとブラックマジック
福岡で新製品展示会
NABショー製品披露

ストロベリーメディアーツとブラックマジックデザインは共催で、「NAB2019新製品展示会」を6月18日に福岡市で開く。入場無料。

4月のNABショーで発表した8K製品群やダビンチリゾルブ16、Editor Keyboardなどの新製品のほか、ダビンチリゾルブのコラボレーション・ワークフロー、Fairlight Console、URSA Mini Proの4・6K G2、モバイル 4K60pシステムなど、ライブ／ポストプロダクションの両方に活用できるさまざまなソリューションを展示する。

ダビンチリゾルブ16および8K新製品のプレゼンテーションも実施する（12時、14時、16時開始＝いずれも30分の予定）。

【日時】6月18日／11―17時

【会場】ストロベリーメディアーツ九州本部オフィス（福岡市中央区草香江2―10―21）

【詳細】bmduser.jp/training



SONY



4Kに
さらなる描写力を。

本格的な4K放送時代へ。ソニーから、新開発グローバルシャッター機能付き
2/3型 4K 3CMOSイメージセンサーを搭載したカメラが登場。
ローリングシャッター歪みやフラッシュバンドのない映像を表現でき、
4K映像の1コマ1コマの美しさまでも追求。音楽やスポーツなどのライブ中継を
限りなくリアルに、感動をありのままに伝えます。

SR Live for HDR　IP Live Production System

4K

真の4K映像を写し撮るソニーの4Kカメラ。

4Kマルチフォーマットポータブルカメラ
HDC-5500 NEW
カメラコントロールユニット
HDCU-5500



HDマルチフォーマットポータブルカメラ
HDC-3500 NEW
カメラコントロールユニット
HDCU-3500
※オプションで4K対応



マルチパーパスカメラ
HDC-P50 NEW
※オプションで4K対応



ソニーのプロフェッショナル/業務用映像制作機材の情報は　sony.jp/pro-cc/
広告掲載商品に関するお問い合わせは 業務用商品購入相談窓口［フリーダイヤル］ 0120-580-730　受付時間:9:00～18:00（土・日・祝日・弊社休業日は除く）

◎ソニーおよびSONYは、ソニー株式会社の登録商標です。 ◎その他記載されている商品名は、各社の商標または登録商標です。本文中ではTM、®マークは明記していません。
◎商品を安全に使うため使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。◎掲載商品の仕様や外観は改良のため予告なく変更することがあります。

Sony Business Solutions Corporation
ソニービジネスソリューション株式会社